

平成30年～令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団		
施 設 名	愛知県芸術劇場		
助 成 対 象 活 動 名	劇場による地域文化向上プロジェクト		
助 成 期 間	5		(年間)
内 定 額	平成30年度	61,373	(千円)
	平成31年度	57,114	
	令和2年度	54,654	
	令和3年度	54,697	

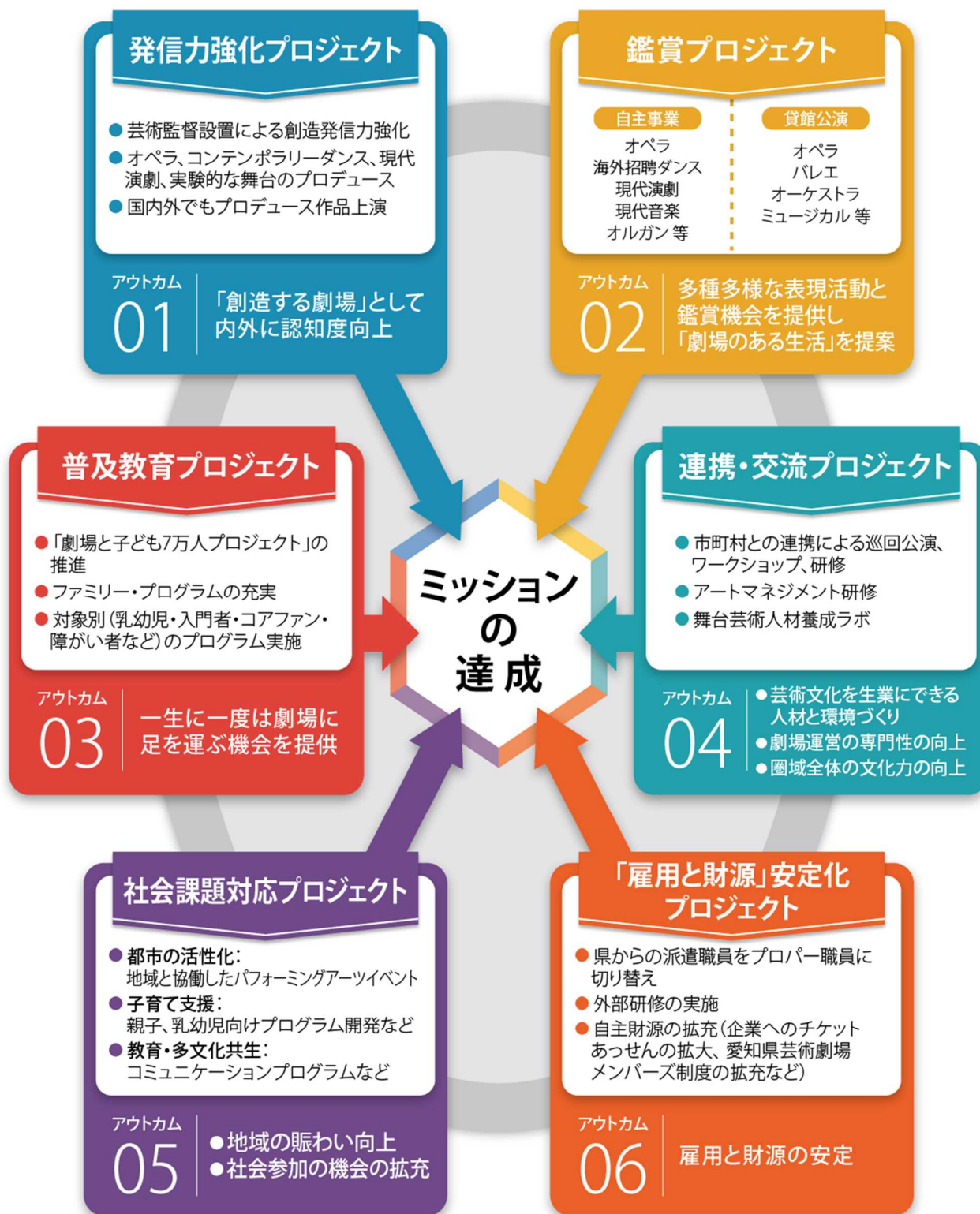
1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）

劇場による地域文化向上プロジェクト



(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	オルガン・アワー ～音のシャワーで心リフレッシュ～	2021 年 6 月 18 日 (金)	オルガン：都築由理江(愛知県芸術劇場オルガニスト)	目標値	1,041
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	845※
2	イスラエル・ガルバン「春の祭典」	2021 年 6 月 23 日 (水)、24 日 (木)	演出・振付・ダンス：イスラエル・ガルバン、ピアノ：片山柊、増田達斗 ※	目標値	1,521
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	869※
3	勅使川原三郎新作ダンス公演「羅生門」	2021 年 8 月 11 日 (水)	振付・演出・美術・照明・衣装・音楽構成：勅使川原三郎、アーティスト・コレクター：佐東利穂子、出演：勅使川原三郎、佐東利穂子、アレクサンドル・リアブコ、笙：宮田まゆみ(録音) ※	目標値	1,075
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	302 ※
4	ナタリア・オシポワ&メリル・タンカード「Two Feet」	2021 年 9 月 10 日 (金)、11 日 (土) (中止) ※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	1,917
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	-※
5	ミニセレ 芸文フェス 向井山朋子「KUMANO」	2021 年 10 月 22 日 (金)、23 日 (土)	コンセプト：向井山朋子、映像・インスタレーション・照明：向井山朋子、レニエ・ファン・ブルムレン、ピアノ：向井山朋子	目標値	195
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	176※
6	ミニセレ 芸文フェス 第 19 回 AAF 戯曲賞受賞記念公演「ねー」	2021 年 11 月 21 日 (日) ~23 日 (火祝) 後日(2022. 3. 14~28) 有料動画配信※	戯曲：小野晃太郎 演出：今井朋彦 出演：猪股俊明他	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	323※
7	芸文フェス NHK 交響楽団 定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2021 年 11 月 28 日 (日)	指揮：ファビオ・ルイージ ヴァイオリン：フランチェスカ・デゴ 管弦楽：NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,527※
8	バットシェバ舞踊団公演	2022 年 1 月 30 日 (日) (中止) ※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	1,248
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	-※
9	第 21 回 AAF 戯曲賞募集・選考	2021 年 5 月~2022 年 3 月	審査員：岩渕貞太、鳴海康平、羊屋白玉、やなぎみわ	目標値	100 作品
		愛知芸術文化センターアートスペース A ほか		実績値	117 作品
10	ミニセレ サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2022	2022 年 2 月 27 日 (日)	出演：ASUNA、伏木啓+Collaborative Artists 及び公募アーティスト	目標値	100
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	131※
11	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①舞台芸術インターンシップ ②学生インターンシップ及びお仕事ナビ ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー	目標値	900
		愛知芸術文化センター内、オンライン※		実績値	753※

12	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター等養成	目標値	150
		愛知芸術文化センター内、オンライン※		実績値	113※
13	劇場と子ども7万人プロジェクト「小さな島とエヴァ」学校招待公演	2022年1月14日（金）、19日（水）、21日（金）※中止	作：ファインガン・クルケメイヤー（テラッピン人形劇団）、ナレーター：川上珠来、音楽：千葉広樹、イラストレーター：日高由美子、人形操作：ゆみだてさとこ ※	目標値	900
		西尾市文化会館、奥三河総合センター（※新城中止）		実績値	1,407※
14	ファミリー・プログラム海外作品「えんどうまめとおひめさま」県内巡回ツアー	2021年7月～8月（中止）※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	2,000
		愛知県芸術劇場小ホール、愛知県内市町村劇場（県内ツアー）		実績値	-※
15	ファミリー・プログラム宮沢賢治「風の又三郎」（振付：勅使川原三郎）	2021年7月24日（土）、25日（日）	演出・振付・美術・衣装・照明デザイン・音楽編集：勅使川原三郎、アティスティック・コラボレーター：佐東利穂子、出演：オーディションダンサー11名、佐東利穂子	目標値	2,000
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	964※
16	ファミリー・プログラム／日生劇場ファミリーフェスティバル物語付きクラシックコンサート	2021年8月14日（土）	指揮：岩村力、構成：栗國淳、演出・構成：眞鍋卓嗣、作曲・編曲：加藤昌則、出演：又吉秀樹他	目標値	1,200
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	1,091※
17	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2021」	2021年11月3日（水祝）～7日（日）	参加団体：愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	200,000
		栄北地区一帯		実績値	12,735※
18	普及啓発及び外国人・障がい者対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	200
		愛知芸術文化センター他		実績値	1,109※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミニセレ 中川賢一・野村誠ピアノ・コンサート「愛と知のメシアン!!」	2021年1月7日(木)※	出演: 中川賢一(ピアニスト)、野村誠(作曲家)	目標値	150
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	81※
2	モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエヌ』 一般公演	2020年6月14日(日) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	330
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	—※
3	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎+佐東利穂子「白痴」	2020年7月17日(金)、18日(土)、19日(日)	構成・照明・衣装・選曲: 勅使川原三郎 出演: 勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	176※
4	ナタリア・オシポワ&メリル・タンカード「Two Feet」	2020年9月17日(木)、18日(金)、19日(土) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	2,538
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	—※
5	ミニセレ 芸文フェス第18回AAF戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」	2020年11月7日(土)、8日(日)、9日(月) 後日(2020.12.26~2021.1.17)有料動画配信※	作: 山内晶、演出: 篠田千明 出演: Nanang/アナント・ウィチャクソノ、益山寛司(劇団子供鉦人)、MIKI the FLOPPY(情熱のフラミンゴ)、入馬券	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	103+85 視聴(配信期間中)※
6	ミニセレ 芸文フェス 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎「調べー笙とダンスによる」	2020年12月4日(金)、5日(土)、6日(日)	構成・照明・衣装: 勅使川原三郎 出演: 勅使川原三郎、佐東利穂子、宮田まゆみ(笙)	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	246※
7	NHK 交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2021年1月31日(日)	指揮: 鈴木優人※ 管弦楽: NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	763※
8	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎新作公演	2021年2月21日(日)、22日(月)、23日(火・祝)	構成・振付・美術・照明・衣装: 勅使川原三郎 出演: 勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	226※
9	ミニセレ 芸文フェスダンス・セレクション2020	2020年10月2日(金)、3日(土)	①演出: 倉田翠、出演: 倉田翠他6名 ②振付・出演: 柿崎麻莉子	目標値	142
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	172※
10	第20回AAF戯曲賞募集・選考	2020年5月~2021年3月	審査員: 白神ももこ、鳴海康平、羊屋白玉、三浦基、やなぎみわ	目標値	100 作品
		愛知芸術文化センター アートスペースA 他		実績値	117 作品
11	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①②アートマネジメント講座、劇場インターン、お仕事ナビ※ ③劇場職員セミナー※ ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー※	目標値	700
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	779※

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
12	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成（中止）※ ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成※ ④ワークショップファシリテーター等養成※	目標値	200
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	79※
13	（劇場と子ども7万人プロジェクト「小さな島とエヴァ」学校招待公演）※ 前年度中に中止決定のため、欠番。	—	—	目標値	3,000
		—		実績値	—
14	劇場と子ども7万人プロジェクト 愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室 2020 モーツァルト作曲 オペラ「バスティアンとバスティエンヌ」学校招待公演	2020年6月19日（金） （中止）※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	700
		碧南市芸術文化ホール		実績値	—※
15	ファミリー・プログラムワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2020年7～8月	①げきじょうたんけんツアー（中止、動画配信に変更※） ②キッズダンスワークショップ（中止※） ③赤ちゃんと踊ろう（オンライン実施※）	目標値	200
		オンライン※		実績値	①1,196 視聴 （3月末）③11 ※
16	ファミリー・プログラム体験型パフォーマンス「どうする！？アンデルセンさん！」他 ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2020年8月	演出：鳴海康平 出演：小菅紘史、夏目慎也、南波圭、白神ももこ	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場小ホール他 県内3劇場		実績値	184※
17	ファミリー・プログラム THE オルガン NIGHT & DAY 2020	2020年7月29日（水）、 30日（木） 後日動画配信※	出演：勝山雅世（オルガン）、村本貴太郎（打楽器、DAYのみ）	目標値	2,700
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	391+1,238 視聴 （3月末）※
18	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2020」	2020年10月31日（土） ～11月3日（火・休）	参加団体：愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	5,000
		栄北地区一帯		実績値	57,821+1,200 視聴 （開催期間中）※
19	ソーシャルインクルージョンプログラム ワークショップ ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2021年1月28日（木）～ 30日（土）	①ワークショップとは？②情報保障とは？③そもそも障がいとは？ 各視点から、アートとコミュニケーションを考える	目標値	600
		愛知県芸術劇場小ホール 一部オンライン参加可※		実績値	45+52（オンライン参加）※
20	普及啓発及び障がい者・外国人対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	500
		愛知芸術文化センター他		実績値	484 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
1	オルガン・レクチャーコンサート～オルガンの名曲でたどる J.S. バッハの生涯	2019. 5. 11 愛知県芸術劇場コンサートホール	□出演者： オルガン・お話：椎名雄一郎 □曲目： J.S. バッハ：トッカータとフーガニ短調 BWV565 他	目標値	1,212
				実績値	1,202
2	ローザス『A love supreme』	2019. 5. 17-18 名古屋市芸術創造センター	□出演者・スタッフ等： 演出・振付：アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 振付：サラバ・サンチェス 出演：カンパニー・ローザス □演目： 『A love supreme』	目標値	900
				実績値	769
3	カーゲル「アコースティカ」	2019. 6. 1 愛知県芸術劇場小ホール	□出演者： 足立智美（作曲家/パフォーマー）他 □曲目： マウリシオ・カーゲル：ACUSUTICA 足立智美：アコースティカですか（世界初演）	目標値	165
				実績値	105
4	ネザーランド・ダンス・シアター（NDT）公演	2019. 6. 28-29 愛知県芸術劇場大ホール	□出演者： ネザーランド・ダンス・シアターダンサー35名 □演目： 「Shoot the Moon」、「Wake up Blind」、「The Statement」、「Singulière Odyssée」	目標値	1,229
				実績値	2,409
5	オルガン・スペシャルコンサート～ピエール・ダミアノ・ペレッティ	2019. 10. 9 愛知県芸術劇場コンサートホール	□出演者： オルガン：ピエール・ダミアノ・ペレッティ ハーブ：田中敦子 □曲目： ヘンデル：ハーブ協奏曲 op. 4-6, HWV294 より アンダンテ・アレグロ 他	目標値	1,199
				実績値	346
6	アルディッティ弦楽四重奏団＋小尻健太	2019. 12. 1 愛知県芸術劇場小ホール	□出演者： 音楽演奏：アルディッティ弦楽四重奏団 振付・ダンス・演出：小尻健太 □曲目： 細川俊夫：新曲（世界初演） 西村朗：弦楽四重奏第6番〈朱雀〉 ヴォルフガング・リーム：弦楽四重奏曲第3番〈胸裡〉、Geste zu Vedova	目標値	165
				実績値	177
7	クリスマスはオルガンだ！2019	2019. 12. 21 愛知県芸術劇場コンサートホール	□出演者： オルガニスト：近藤岳 カウンターテナー：中嶋俊晴 □曲目： 聖歌：「久しく待ちにし」他	目標値	1,083
				実績値	2,016
8	NHK 交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）	2020. 1. 26 愛知県芸術劇場コンサートホール	□出演者： 指揮：ファビオ・ルイージ ソプラノ：クリスティーネ・オポライス 管弦楽：NHK交響楽団 □曲目： ウェーバー：歌劇『オイリアンテ』序曲 R. シュトラウス：4つの最後の歌、交響詩「英雄の生涯」作品4	目標値	1,340
				実績値	1,564
9	ON VIEW : Panorama	2020. 2. 7-9 愛知県芸術劇場小ホール	□出演者・スタッフ等： 振付・映像：スー・ヒーリー（オーストラリア） ダンス：湯浅永麻、浅井信好（日本）、ムイ・チャック・イン、ジョセフ・リー（香港）、ナリーナ・ウエイト、ベンジャミン・ハンコック（オーストラリア）	目標値	405
				実績値	216

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
10	勅使川原三郎ダンス・コンサート【公演中止】	2020. 3. 12	□出演者・スタッフ等： 演出・振付・照明・美術・ダンス：勅使川原三郎 ダンス：佐東利穂子 ヴァイオリン演奏：庄司紗矢香 □演目： 「三つ折りの夜」	目標値	975
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	—
11	ダンス・セレクション	2019. 10. 19	□出演者・演目： 鈴木竜：『AFTER RUST』 横山彰乃 / la! banshees：『ペッピライカで雪を待つ』 渡邊尚（頭と口）×ギョーム・マルティネ（Defracto）：『妖怪ケマメ』	目標値	284
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	114
12	サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2020	2020. 2. 23	□出演者： ゲストアーティスト 正直、ミニスキュル・シングス（立川貴一＋吉田アミ）と大谷能生 公募アーティスト CORONA、みあいっこ、日々《変容の対象》アンサンブル	目標値	64
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	91
13	第 19 回 A A F 戯曲賞募集・選考	2019. 5-2020. 3	□審査員： 三浦基、鳴海康平、やなぎみわ、白神ももこ	目標値	100 作品
		愛知県芸術劇場アートスペース A ほか		実績値	136 作品
14	愛知県芸術劇場 2019 年度舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	□プログラム： ①舞台芸術インターンシップ ②学生インターンシップ、舞台芸術お仕事ナビ ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術ワークショップファシリテーター&コーディネーターセミナー	目標値	700
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	672
15	アーティスト人材養成事業	通年	□プログラム： ①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター養成	目標値	263
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	180
16	愛知芸術文化センター リニューアルオープン記念 愛知県芸術劇場オープンハウス&ダンス・ワークショップ	2020. 5. 3	□プログラム： ①劇場案内ツアー ②ダンスワークショップ ③子ども劇場スタッフ体験 ④オープンハウス	目標値	1,000
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	829
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2019. 7-8	□プログラム： ①げきじょうたんけんツアー ②キッズ音楽ワークショップ ③赤ちゃんと踊ろう	目標値	200
		愛知県芸術劇場大ホールほか		実績値	272
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム『L o o』県内ツアー	2019. 7-8	□出演・製作：ポンテン・ピエ □県内ツアー地：県内 8 市町村	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	563 (+ツアー1923)
19	THE オルガン NIGHT & DAY 2019	2019. 8. 28-29	□出演者： オルガン：都築由理江（当劇場オルガニスト）	目標値	3,636
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	3,022
20	ソーシャルインクルージョンプログラム パフォーミングワークショップ	2020. 1. 21-25	□講師： Oily Cart（エリー・グリフィッツ、マックス・ラインハルド、ロビン・スチュワード）他 □プログラム 1. 21-24：ワークショップ&ショーイング（対象 音楽家、パフォーマー） 1. 25：シンポジウム（対象 アーティストや舞台芸術・福祉・教育などの現場で活動する人等）	目標値	210
		愛知県芸術劇場リハーサル室ほか		実績値	38

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
21	半田市オペラ鑑賞教室学校招待公演／愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室 2019 「レクチャー&オペラ上演」～60 分でわかる！オペラのススメ	2019. 6. 6	□出演者・スタッフ等： 演出・構成・日本語訳：宮本益光 出演者：宮本益光、針生美智子、三枝宏次 □演目： 「奥様女中」	目標値	2, 000
		半田市福祉文化会館		実績値	2, 143
22	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート」	2019. 11. 1-4	□参加団体： 愛知芸術文化センター、NHK 名古屋放送局、オアシス 2 1 他 □当劇場プログラム： 「あそびプログラム」、防災人形劇「さんびきのこぶた危機一髪！」	目標値	5, 000
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	244, 326
23	普及啓発事業	通年	□プログラム： ①乳幼児と保護者のためのプログラム ②入門者のためのプログラム ③より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム ④障がい者及び劇場に来づらい人のためのプログラム ⑤在住外国人のためのプログラム	目標値	500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	537
24	バリアフリー対応	通年	□内容： ①聴覚障がい者対応： ヒアリングループの設置、手話通訳、字幕設置 ②視覚障がい者対応： 点字翻訳パンフレット、公演前説明会	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—
25	多言語対応	通年	□内容： 英語、日英併記チラシ等の作成	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—

(5) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	愛知県芸術劇場ミニセレ 島地保武×環 ROY『ありか』再演	平成30年6月23日(土)、24日(日)	出演及び演出：島地保武、環 ROY 振付：島地保武／音楽：環 ROY 平成28年度、平成29年度と各地で公演を重ねてきた本作品を、凱旋公演として愛知県芸術劇場にて再演。出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武と、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションや NHK 教育テレビでも活躍する異色のラッパー環 ROY。2年間の共演を踏まえて、改めて作品を見直しつつ、より先鋭的でかつ質の高い作品の凱旋公演を実現した。	目標値	300
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	275
2	愛知芸文フェス／愛知県芸術劇場ミニセレ 第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』	平成30年10月26日(金)、27日(土)、28日(日)	作家・作品名：カゲヤマ気象台『シティⅢ』(第17回AAF戯曲賞大賞受賞)演出家：振子びじん 第17回AAF戯曲賞の大賞受賞作品、カゲヤマ気象台・作『シティⅢ』を、劇場プロデュースによって製作及び上演した。公演製作にあたり、劇場職員が制作面・舞台技術面で作品創作過程に一から関わり、アーティストと一緒に劇場主体で作品を創作した。戯曲の審査から公演のプロデュースまでを一貫して愛知県芸術劇場が主体となっていくことで、文化の発信拠点として地域の拠点劇場の役割を果たした。	目標値	400
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	288
3	愛知芸文フェス イスラエル・ガルバン『黄金時代』	平成30年11月2日(金)、3日(土・祝)	演出・振付：ペドロ・ロメオ出演：イスラエル・ガルバン、ダビ・ラゴス(カンテ)、アルフレド・ラゴス(ギター) 現代的なフラメンコの中でも、最高峰のアーティストとされる、イスラエル・ガルバン。フラメンコは、ダンスだけではなく、ギターやカンテ(歌)といった音楽的な要素の存在も非常に大きい。今回の来日では、ダンス(バイレ)と歌(カンテ)と演奏(ギター)によるフラメンコの最小単位によるイスラエル・ガルバンの代表作のひとつ「黄金時代」を上演した。	目標値	1000
		名古屋市芸術創造センター		実績値	600
4	愛知芸文フェス モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』	平成30年11月16日(金)、17日(土)	演出：太田麻衣子指揮：角田鋼亮出演：伊藤晴／柴田紗貴子 ほか管弦楽：愛知室内オーケストラ若い男女の恋物語を題材とした、モーツァルトが12歳の時に作曲された最初期の演目『バスティアンとバスティエンヌ』を上演。単なる上演ではなく、公演前半に上演演目と関連のある作品による構成を加えて、独自のスタイルによる2部構成で公演全体をアレンジメントすることで、演目そのものにも、より膨らみのある意味を付加した内容とした。	目標値	400
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	505
5	愛知芸文フェス クリスマスはオルガンだ！2018	平成30年12月21日(金)、22日(土)	都築由理江(オルガン)、服部孝也(トランペット)クリスマス時期のコンサートであることを意識させることで興味を喚起させ、クリスマスの雰囲気のあるプログラムで実施した。演奏者自身によるトークを	目標値	3000

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
		愛知県芸術劇場 コンサートホール	織り込み、聴衆に演奏者へ親近感をもってもらうと共に、パイプオルガンについての話題も盛り込み、楽器についての関心も高めてもらった。演奏を聴くことに加えて、大型スクリーンに演奏風景をリアルタイムで投影することにより、演奏を「見る」楽しみを上乘せした。	実績値	2290
6	バレンタイン・オルガンコンサート～ダニエル・ザレツキー	平成 31 年 2 月 8 日 (金)	オルガン：ダニエル・ザレツキー（ロシア）バレンタインのコンサートであることを意識しつつも、オルガン・ソロでないことと実現が難しい、楽器の性能を充分に活かしたプログラムとした。大きな意味での「愛」をキーワードとしたプログラムとすることで、バレンタインの雰囲気作りを心掛けた。	目標値	1400
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1212
7	NHK 交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)	平成 31 年 2 月 24 日 (日)	指揮：パーヴォ・ヤルヴィ（N響首席指揮者）管弦楽：NHK交響楽団演奏曲目：ストラヴィンスキー・プログラム交響的幻想曲「花火」他 NHK交響楽団の定期演奏会のうち、サントリーホールで開催される定期演奏会のBプログラムを、そのままの出演者・曲目により愛知県芸術劇場コンサートホールで開催する。どちらのホールも、ステージを取り巻く形状の客席であるだけでなく、ロマン派以降のオーケストラ作品において、挿入楽器として編成に含まれる事のあるシンフォニックタイプのパイプオルガンをホール正面に備える音響面で優れた大規模のホールであるため、ホールの機能を活かしつつ、共通したプログラムを組むことが可能である。	目標値	1600
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1685
8	声明 四箇法要「花びらは散っても花は散らない」附 宮内康乃作曲《海霧讃歎》	平成 31 年 3 月 2 日 (土)	出演：声明の会・千年の聲（天台・真言両宗の僧侶 30 名）構成・演出：田村博巳 演目：日本最古の声明曲「四箇法要（しかほうよう）」他古典声明と新作声明から構成されるコンサート。日本音楽の源流の一つであり、キリスト教のグレゴリオ聖歌と並ぶ宗教音楽である 「声明」は、その音楽性からアカペラの音楽としても非常に魅力的である。男性僧侶たちの鍛え上げた声により自由リズムで唱えられ、倍音が重なり、濃密な音響空間を体感できた。	目標値	1200
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1205
9	ダンス・コンサート Manuel Legris 『Stars in Blue』 BALLET & MUSIC	平成 31 年 3 月 17 日 (日)	演出・出演：マニユエル・ルグリ（ウィーン国立バレエ団芸術監督）出演：オルガスミルノワ（ホリゾント・バレエ・プリシパル）他 演奏：三浦文彰（ヴァイオリン）他振付：パトリック・ド・バナ 平成 27 年度にパリ・オペラ座エトワール・ダンサーのエルヴ	目標値	1000

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
		愛知県芸術劇場 コンサートホール	エ・モローがNYのカーネギーホールからスタートした「バレエと音楽の饗宴」を、日本向けに再演出して、ツアー公演を行った。当館でも「月夜に煌めくエトワール」と題して、ヴァイオリン、ピアノとバレエダンサー3名の計5名によりコンサートホールでダンスと音楽のタペを開催。今回は、大反響となったこの公演の成果を継承しつつ座長をマニエル・ルグリに依頼しさらに発展させた公演を企画制作した。	実績値	1086
10	愛知県芸術劇場ミニセレダ ンス・セレクション	平成30年10月6日 (土) 8日(月・祝)	出演：《10月6日》+81、康本雅子、ブッシュマン 《10月8日》白井剛、小暮香帆、オトリヨセ企画	目標値	290
		愛知県芸術劇場小ホール	6組のダンサーが30分程度の作品を連続上演する公演。過去に上演され、独自の作風を持つ振付家・ダンサーによる、話題を呼んだダンス作品を、トリプル・ビルの形で一挙に紹介した。	実績値	258
11	愛知県芸術劇場ミニセレ サウンドパフォーマンス・プラ ットフォーム2019	平成31年2月9日 (土)、11日(月・祝)	出演：公募出演者(大久保雅基、杉野晋平、dobby/ 仮説、Affine、signal compose、大所帯非楽器アンサンブル POLY!)、ゲストアーティスト(夏の大△、藤田陽介、電力音楽、Hair Stylistics)	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール	音を用いたパフォーマンス作品は、いわゆる現代音楽にとどまらず、ダンスのように身体性を重視したもの、演劇のように言葉に着目したもの、1960年代の「イベント」「アクション」「パフォーマンス」など美術系のもので映像を伴うものまで、非常に多様である。こうした現状に着目し、音を核にしているという点だけに依拠してそのほかあらゆる境界を越えて、ジャンルにとらわれずチャレンジフルで研鑽を積む若いアーティストや、中堅からベテランのパフォーマーまで、その作品を探し出し、上演した。	実績値	183
12	第18回AAF戯曲賞(募集・選考・審査会)	平成30年6月1日 (金)：募集開始／7月31日 (火)：募集締め切り／10月～11月：審査員による1次・2次選考会／平成31年1月6日(日)：最終審査(公開審査)	審査員：篠田千明(演出家・イベンター)／鳴海康平(第七劇場主宰・演出家)／羊屋白玉(指輪ホテル主催、演出家・劇作家・俳優)／三浦基(地点代表・演出家)／やなぎみわ(演出家) 募集及び審査全国から戯曲を募集し、2回の予備審査を経て、公開審査会によりAAF戯曲賞大賞・特別賞を選定した。公開審査会審査員5名と応募者が同席する会場で議論のうえ、大賞及び特別賞を決定した。	目標値	100 作品
		愛知県芸術劇場小ホール 他		実績値	109 作品＋75 人

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
13	アーティスト人材養成事業	通年	(1) 合唱団養成講師:大島義彰(合唱指揮) (2) オルガニスト養成講師:都築由理江(当劇場オルガニスト) (3) 振付家・ダンサー養成 ①岡登志子ダンスワークショップ in 愛知 ②フォーサイスのメソッドに基づくコンテンツポラリー・ダンス・ワークショップ/あ りか再演関連事業講師:島地保武 ③ダンス・セレクション関連『踊る』『語る』『集う』講師:Opto(湯浅永麻、小尻健太) ④NDT メソッドに基づくコンテンツポラリー・ダンス・ワークショップ 講師:Opto(湯浅永麻/小尻健太) ⑤マニユエル・ルグリ トークイベント/ダンス・コンサート関連事業講師:マニユエル・ルグリ、シルヴィア・アッツオーニ (4)ワークショップリーダー養成プログラム講師:吉野さつき(ワークショップコーディネーター)、倉品淳子(俳優・演出家)	目標値	50
		愛知芸術文化センターア ートスペース A 他		実績値	263
14	愛知県芸術劇場 平成 30 年度舞台芸術人材養成ラボ	通年	(1) 実践実習プログラム:舞台芸術インターンシップ(企画制作・広報コース、舞台技術コース)対象:舞台芸術に関わる仕事に就きたいと考えている学生や、舞台芸術に関わる仕事を始めた若手制作者 (2) 職場体験プログラム:学生インターンシップ及び舞台芸術お仕事ナビ対象:芸術大学等でアートマネジメントを学ぶ学生や、一般の大学に在籍し芸術文化の振興に関心のある学生 (3) 技能習熟プログラム:劇場職員セミナー(企画制作・広報コース、舞台技術・劇場運営コース)対象:公立劇場や市町村の文化振興担当者のうち、概ね4年以上の経験者 (4) 創造制作プログラム:舞台芸術創造セミナー対象:制作者や芸術文化コーディネーター等、舞台芸術に関わる者 (5) 普及啓発人材プログラム:ワークショップ等コーディネーターセミナー ワークショップリーダー等が地域でワークショップを実施し活躍するための基礎となる知識・技能が得られる講座	目標値	250
		愛知県芸術劇場 小ホール 他		実績値	914
15	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『寿歌』(小中学生学校招待公演)	《知立公演》平成30年6月13日(水)、14日(木)、15日(金) 《小牧公演》平成30年6月22日(金)	作:北村想/演出:宮城聰出演:奥野晃士、春日井一平、たきいみき (SPAC俳優)愛知県芸術劇場とSPAC-静岡県舞台芸術センターが共同企画として創作した現代演劇『寿歌』の学校招待公演を行った。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に演出家や出演者との交流時間を設ける。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	1500
		パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)、小牧市市民会館		実績値	1665

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
16	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『あrika』(小中学生学校招待公演)	平成30年6月26日 (火)、28日 (木)、29日(金)	出演及び演出：島地保武、環 ROY 振付：島地保武／音楽：環 ROY 出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武。及び、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションや NHK 教育テレビでも活躍する異色のラッパー環 ROY。先鋭的でかつ質の高い作品として、県内小中学生に鑑賞してもらった。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に出演者との交流時間を設けた。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	750
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	528
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム 『小さな島とエヴァ』公演&県内市町村ツアー	《栄公演》平成30年8月4日 (土)、5日(日)《幸田公演》平成30年8月8日 (水)《豊川公演》平成30年8月10日 (金)《稲沢公演》平成30年8月12日(日)《千種公演》平成30年8月15日(水)《碧南公演》平成30年8月15日(水)《小牧公演》平成30年8月19日(日)《知立公演》平成30年8月22日(水)	演出：Sam Routledge／作：Finegan Kruckemeyer デザイン：Jonathon Oxlade／作曲・演奏：Dean Stevenson 照明：Nicholas Higgins プロダクションマネージャー：Andrew MacDonald／人形遣い：Felicity Horsley (以上、タスマニアン・パペット・シアター) 出演(ナレーター役)：川上珠来(名古屋市在住)オーストラリアのタスマニアを拠点に活動するタスマニアン・パペット・シアターを招聘し、代表作『小さな島とエヴァ』を、地元在住の日本人俳優を起用した日本バージョンとしてリクリエーションした。 愛知県芸術劇場小ホールを皮切りに、愛知県内でツアーを行い、多くの子どもたちや保護者の方に観劇体験やアーティストとのふれあいを提供した。	目標値	1000
		愛知県芸術劇場小ホール、幸田町民会館、豊川市御津文化会館、名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市市民会館)、名古屋市千種文化小劇場、碧南市芸術文化ホール、小牧市東部市民センター、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)		実績値	1116
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	(1)平成30年8月1日(水) (2)①平成30年8月17日(金)、18日(土) ②平成30年8月17日(金)、18日(土)、19日(日) (3)①平成30年8月23日(木)、24日(金) ②平成30年8月24日(金)、25日(土)	(1)げきじょうたんけんツアー 講師：劇場職員 他 初めて劇場を訪れるような小学校低学年の子供たちを対象にした楽しい探検ツアー (2)ダンスワークショップ ①オリジナルなダンスをつくろう！ 講師：古家優里(振付家・ダンサー) 小学校高学年の子供たちを対象にした、ダンス体験ワークショップ ②赤ちゃんと踊ろう 講師：古家優里(振付家・ダンサー) 乳幼児及びその保護者を対象にしたダンス体験ワークショップ (3)えんげき de コミュニケーション！ 講師：振子びじん、佐々木文美 他 小学校高学年の子供たちを対象にした、演劇体験ワークショップ	目標値	200
		(1)愛知県芸術劇場小ホール、 (2)(3)愛知芸術文化センターアートスペース A		実績値	265

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
19	普及啓発事業	通年	(1)乳幼児と保護者のためのプログラム 未就学児連れで参加できるコンサートやダンスワークショップを開催した。 (2)入門者のためのプログラム 舞台芸術に触れてみたい人のために、初心者を対象としたワークショップや、お茶を片手に気軽に参加できるトークやレクチャーなどを開催した。 (3)より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム	目標値	800
		半田市福祉文化会館 他	鑑賞公演や創作公演に関連した内容を、より深く体験し、広く深い知識をもって鑑賞できるようになるための実演付レクチャーや講座やワークショップを行った。 (4)障害者及び劇場に来づらい人のためのプログラム 視覚や聴覚の障害者が公演を楽しめるように事前に特別な解説を行ったり、サポートを実施した。また劇場を訪れる機会の少ない児童養護施設児童等を対象に招待公演を行った。 (5)在住外国人のためのプログラム 親子のダンスワークショップを外国人住民との交流プログラムとして実施した。	実績値	1122
20	ご近所連携 栄北エリア連携事業『久屋ぐるっとアート』	平成 30 年 11 月 2 日(金) ～4 日(日)	《イスラエル・ガルバンとフラメンコを踊ろう》 フラメンコの名手、イスラエル・ガルバンの指導に基づき、全くの初めての人も含めてみんなでフラメンコの一場面を踊るワークショップを開催し、実際に踊った。 《栄まちじゅう音楽広場》 愛知県吹奏楽連盟の協力を得て、多数の吹奏楽団が参加・演奏する野外コンサート。例年開催されているこの催しを共同で開催することにより、より多様な参加者を得た。	目標値	5000
		愛知芸術文化センター、愛知県芸術劇場、オアシス 21、名古屋テレビ塔、NHK名古屋放送局、セントラルパーク 他 栄北地区一帯	《フォーラムシアター2018》 地元を拠点に活動するダンスグループや劇団によるミニ公演を開催した。 《あそびシアター by AAC》 アートの要素を含めながら親子で参加できて楽しめるワークショップを開催した。	実績値	46000
21	バリアフリー対応	通年	(1)聴覚障がい者対応 ①赤外線補聴システムの使用 ②字幕設置	目標値	—
		名古屋市芸術創造センター 他	③ポータブル字幕使用 (2)視覚障がい者対応 ①触る舞台美術模型を使用した開演前舞台説明 ②開演前の説明会 ③点字プログラムの作成 (3)障がい者向け対応周知チラシの作成 (4)視覚障がい者への開演前の説明会のブレ実施と対応訓練	実績値	—

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
22	多言語対応	通年	(1)ファミリー・プログラムの多言語版のチラシの作成 (2)コンサートホール公演（クリスマス、バレンタイン、N響、聲明、ダンスコンサート）まとめチラシの英語版の作成 (3)「聲明」公演における英語字幕の投影 (4)「ダンス・コンサート スターズ・イン・ブルー」公演における英語資料の作成 (5)ワークショップ『赤ちゃんと一緒にダンス!』の実施	目標値	—
		愛知県芸術劇場コンサートホール 他		実績値	—

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当劇場は、「劇場による地域文化向上プロジェクト」の採択を受け、H30 から R3 年度まで4年間、この6つのプロジェクトを推進すべく総合的な事業展開を行なった。

本プロジェクトは、当劇場のミッション、ビジョンや地域の特性、施設の特色等と有機的に連関し、プロジェクトごとにアウトカム、目標・指標を定め、その達成状況を把握し進行管理を行なっている。各プロジェクトとミッション等との適合及びそれに基づく具体的な事業の実施状況例は下記のとおり。

なお、R1 年度末から現在に至るまで新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響により、多くの事業で中止等を余儀なくされ、特に海外アーティストの招聘は渡航制限により多くがかなわなかった。しかし、そうした中でも地域、ひいては我が国の芸術文化の灯を絶やさぬよう、プロジェクトの趣旨にのっとり積極的な取組みに努め、6つのプロジェクト全てについて、コロナによる一部事業の中止等を除き概ね当初の予定通り事業を進めることができた。

①発信力強化プロジェクト

～プロデュース作品を製作し国内外で上演することで創造発信～

当劇場のミッション「つくる：国内外に芸術文化を創造・発信する劇場」及びビジョン「芸術文化のプレゼンスを高める劇場を目指す」に基づき、アウトカム「『創造する劇場』として内外に認知度向上」を目指して、下記のような事業を行なった。

- ・ジャンルを問わず数多くのプロデュース作品を製作し、他劇場を含めて上演を行なった。
 - ・H30 年度 元パリ・オペラ座エトワールで当時ウィーン国立バレエ団芸術監督であったマニュエル・ルグリによる「Stars in Blue」を当劇場の他国内3館で公演実施。
 - ・R1 年度 オーストラリア・香港との国際共同製作「ON VIEW」を国内で上演した後、海外の劇場等でもオンライン配信等により様々な形で発信（予定された海外公演はコロナで中止）。
 - ・R1 年度 ダンスとラップによる「ありか」（H28 年度製作）をフランス・パリにて上演（初演以降累計 10 会場、23 公演実施）。
 - ・R4 年度 小ホールの劇場空間を活かした演劇的な独自構成のオペラ「バスティアンとバスティエヌ」（H30 年度製作）を県内市町村劇場での学校招待公演も含めて再演予定（R2 年度はコロナで延期）。
- ・R2 年度からは世界的なダンサー・振付家・演出家である勅使川原三郎が当劇場の初代芸術監督に就任し、国際的な発信力のある舞台作品を製作・上演した。
 - ・R2 年度 就任記念シリーズ3公演を実施。
 - ・R3 年度 国際的なバレエダンサーと共に愛知で創作した大ホールにおける新作公演「羅生門」を実施。

②鑑賞プロジェクト

～海外招聘ダンス・オペラ・オルガン・現代音楽・演劇等多様な舞台芸術の鑑賞の場を提供～

当劇場のミッション「みる：優れた舞台芸術の鑑賞の場を提供する劇場」及びビジョン「多種多様な人が劇場に集い、親しまれる劇場を目指す」に基づき、アウトカム「多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供し『劇場のある生活』を提案」を目指して、下記のような事業を行なった。

- ・地方における世界トップクラスのアーティストの鑑賞機会として、国内主要劇場等と共同制作・招聘することで、海外ダンスカンパニーと交渉の上、数多くの招聘公演を行なった。
 - ・H30・R3 年度 コンテンポラリー・フラメンコの最高峰イスラエル・ガルバンによる公演を実施。
 - ・R1 年度 アンケートで最も上演の機会を望む声が多かった NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）、ローザスの公演を実施。
- ・愛知芸術文化センター開館以来高い評価を得ている当劇場の特徴である先駆的・実験的な作品の上演も継続して実施した。
 - ・H30 年度 同時代性の感じられる構成とした「しょうみょう 声明」をテレビ局と連携して実施。
 - ・R3 年度 ピアニスト・美術家の向井山朋子による「KUMANO」を小ホールの「ミニセレ」シリーズとして実施。
- ・当劇場の特色である日本最大級のオルガンを活用したコンサートは、対象者や目的を変えて（初心者～リピーター等）あらゆる方にその魅力を堪能していただけるよう工夫し実施した。また、他劇場と共同により著名な海外オルガニストの招聘も実施した。

③普及教育プロジェクト

～子どもから大人まであらゆる人が舞台芸術を体験し豊かな感性を育む観客層を育成～

当劇場のミッション「ひろげる：舞台芸術のすそ野を広げる劇場」及びビジョン「舞台芸術により豊かな感性を育み、次世代への継承・発展を図る劇場を目指す」に基づき、アウトカム「一生に一度は劇場に足を運ぶ機会を提供」を目指して、下記のような事業を行なった。ただし、コロナの影響により特に学校招待公演については学校側の判断での中止もあった。

- ・県内の小中学生1学年に相当する7万人を劇場に招待する取組みである「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、コロナにより全公演中止となったR2年度を除いて毎年当劇場主催で2～3作品上演。併せて、県内16市町村とパートナー宣言を締結し、連携して目標の達成に向け取り組んだ。
- ・R3年度 「小さな島とエヴァ（日本人版）」の県内市町村劇場での学校招待公演では、山間部・離島の学校や軽度の障がいのある子ども、海外にルーツを持つ子どもも鑑賞する等、多様な子ども達の鑑賞機会を作った。
- ・家族で楽しめる「ファミリー・プログラム」としては、定番の0歳から入場できるオルガンのワンコインコンサート「THEオルガンDAY」や毎年すぐに定員に達する「げきじょうたんけんツアー」等を継続実施。コロナ禍でも自宅から楽しめるよう動画制作・公演配信も行なった。R4年度からはこれまでの夏休み期間に加えGW期間にも同プログラムを実施することにより、特に子育て世代の来場拡大を推進する。
- ・アートによるソーシャルインクルージョンをテーマとした取組みを、R1年度から継続実施した。
- ・R1年度 障がいのある子どもも楽しめるパフォーマンス活動を行なうイギリスの劇団オイリー・カートを招聘しワークショップ、シンポジウムを実施。
- ・R2・3年度 R2年度に予定した同劇団再招聘がコロナによりかなわず、延期公演に向けた機運醸成のためワークショップ、オンラインゼミを実施。
- ・R4年度 同劇団を再度招聘し、公演実施を予定。

④連携・交流プロジェクト

- ～劇場職員を始め舞台芸術に携わるスタッフ、アーティストや市町村と連携交流を図り地域の文化力向上～
- 当劇場のミッション「つなぐ・そだてる：地域全体の文化力を高める劇場」及びビジョン「市町村劇場等とともに、広域的な文化振興を図る劇場を目指す」に基づき、アウトカム「芸術文化を生業にできる人材と環境づくり」、「劇場運営の専門性の向上」、「圏域全体の文化力の向上」を目指して、下記のような事業を行なった。なお、コロナ禍でもオンラインによる講座等の配信も積極的に行なった。
- ・「舞台芸術スタッフ人材養成ラボ」では全国から参加者の集まる劇場職員向けのセミナーや未来を担う学生向けのインターン等を体系立てて毎年継続実施、多数の参加を得た。
 - ・「アーティスト人材養成」では勅使川原芸術監督による地域の若手ダンサー養成により「風の又三郎」公演を実現。またコンサートホールのパイプオルガンを活用してのオルガニスト養成講座を継続する中で R3 年度からは通年コースを設定しプログラムを充実した。
 - ・毎年実施している「AAF 戯曲賞」、概ね2年に1回実施している「ダンス・セレクション」や「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム」は、その受賞や出演をきっかけとしてその後活躍していくアーティストを輩出した。
 - ・コロナにより中止となったR3年度を除き毎年、「ファミリー・プログラム」の一環として、海外小規模カンパニーによる県内市町村巡回公演を実施した。
 - ・H30年度 オーストラリア・タスマニアのカンパニーによる「小さな島とエヴァ」を実施。
 - ・R1年度 スペインのカンパニーによる「L00」を実施。
 - ・R2年度 予定した海外カンパニーが来日できず急遽製作した「どうする！？アンデルセンさん！」を実施。
 - ・R4年度 R2年度から延期したノルウェーのカンパニーによる「えんどうまめとおひめさま」を実施予定。

⑤社会課題対応プロジェクト

- ～芸術の力で都市・福祉・多文化共生等の社会課題の解決につなげ地域に貢献～
- 当劇場のミッション「こたえる：地域の課題に応える劇場」及びビジョン「地域の課題に積極的に応え、地域に貢献する劇場を目指す」に基づき、アウトカム「地域の賑わい向上」「社会参加の機会の拡充」を目指して、下記のような事業を行なった。
- ・H30年度に立ち上げた、都市の課題にアートの力で応えるイベント「久屋ぐるっとアート」は地域のイベントとして定着が進み、企画の見直しを進めながら毎年継続実施。
 - ・行政の多文化共生部門や地域のNPOとも連携し、外国人住民向けのダンスワークショップ（H30年度～）や、共生をテーマにした演劇ワークショップ（R1年度～、R2年度は中止）を継続実施した。

⑥「雇用と財源」安定化プロジェクト

- ～ミッション実現の基盤となる人材・財源を確保～
- 当劇場のミッション「ささえる：適正な劇場マネジメント」及びビジョン「自主財源を確保し使命の実現につなげる劇場を目指す」、「職員が安心してその能力を発揮できる劇場を目指す」に基づき、アウトカム「雇用と財源の安定」を目指して、下記のような取組みを行なった。
- ・愛知県芸術劇場メンバーズの会員数増加によりチケット販売拡大へつなげるとともに、自主財源拡充に向けた「賛助会員制度」をR3年度から本格的に開始した（現在会員数は14法人）。
 - ・高い専門性を擁する劇場職員を他劇場等に講師・委員等として多数派遣するとともに、外部研修受講による職員の能力向上を図った。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

①文化的意義（高い芸術性を待つ作品の創造発信により、我が国及び地域の文化・芸術水準向上）

- ・H28 年度に当劇場のプロデュースにより製作したダンスとラップを組み合わせた先端的な作品「ありか」について、H29 年度の県内外の巡回公演を経て、H30 年度以降下記展開により愛知から海外への創造発信を行ない、我が国の文化・芸術水準の向上に資することができた。
- ・H30 年度 小ホールでの凱旋公演を学校招待公演も含めて実施。
- ・R1 年度 フランス・パリを始め国内外の3か所で再演。(初演以降累計10会場、23公演を実施。)
- ・R2 年度 前年度のTPAM(国際舞台芸術ミーティング in 横浜)での上演を観た関係者からのオファーによりドイツ・イタリアのフェスティバルでの上演が予定されたが、コロナにより中止。
- ・R3 年度 国際交流基金のプロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」にて日本を代表する優れた作品として選定され、多言語字幕により全世界に向けて映像配信を行ない、約7.5万回視聴された。
- ・勅使川原芸術監督の独自の高い芸術性と地域の文化的資源である数多くのバレエ団やダンサー達を掛け合わせた事業として、「風の又三郎」公演が実現。勅使川原監督による創造は、出演ダンサーはもちろん、鑑賞した地域の関係者達にとっても大きな刺激となり、愛知における文化・芸術水準の向上に資することができた。
- ・R1 年度 勅使川原監督と地元バレエ団との懇談会を実施し、意見交換。
- ・R2 年度 オーディションにより地域ゆかりの出演ダンサー11名を選出、稽古を開始。
- ・R3 年度 「風の又三郎」初演実施。その後、再演に向けたオーディション、稽古を実施。
- ・R4 年度 続投7名に新規ダンサーを加え、再演予定。完成度が増し優れた作品となることが期待される。

②社会的意義(劇場の社会的役割を認識、芸術の力で課題に応える事業により、地域社会に貢献)

- ・近年劇場に求められる役割として「社会包摂機能」があるが、これに対応すべく、アートによるソーシャルインクルージョンをテーマとした取組みをR1年度から継続実施。下記展開により、地域社会に貢献した。
- ・R1 年度 障がいのある子どもも楽しめるパフォーマンス活動を行なうイギリスの劇団オイリー・カートを招聘。音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップや地域のNPOへのアウトリーチ、福祉・教育現場で活動する人も対象としたシンポジウムを実施。
- ・R2 年度 前年度の取組みを展開させ、パフォーマンスづくり(公演)を行なう予定であったが、劇団の来日がかねわず中止(延期)。代替企画として、アートとコミュニケーションに関してさまざまな視点から考えるワークショップを実施。
- ・R3 年度 前年度までの取組みをさらに深化させるオンラインゼミを実施。「声」及び「触る」をテーマに各ジャンルの専門家・アーティストをゲストに迎え、年間を通じて考える機会を作った。
- ・R4 年度 これまでの継続した取組みにより、地域のアーティスト・観客・支援者のそれぞれが主体的に共生社会を作る一員であることを認識する環境が整ってきた中、2年延期したオイリー・カート公演が実現予定。同劇団と日本人アーティストによるインクルーシブなパフォーマンスの実現に期待が高まる。
- ・当地域の特性として、ブラジルを始めとした外国人住民数が多い(全国2位)。劇場としても多文化共生社会の実現に向け積極的に協力していくこととし、愛知県多文化共生室等の行政機関や地域のNPO等と連携し下記の取組みをH30年度から継続実施。地域社会への貢献を行なうとともに、普段劇場に来ることの少ない方が舞台芸術に触れるきっかけを作った。
- ・H30年度から、県の進める「多文化子育てサロン」事業にて、そのプログラムの一つとして劇場が企画協力し講師を派遣。ダンスワークショップ「赤ちゃんとも踊ろう」を行ない、外国人親子及び日本人親子の交流の一助となった。
- ・R1年度は県の「多文化共生タウンミーティング」にて、R3年度は名古屋国際センターの「地域の国際化セミナー」にて、劇場が企画協力し講師を派遣。演劇を手法としたワークショップを通し、異なる背景を持つ者とのコミュニケーションについて考える機会を提供した。

③経済的意義(地域に根差した事業展開により、経済・生活を活性化)

- ・当劇場が立地する栄地区の地盤沈下(名古屋駅地区との役割分担が必要)という都市の課題にアートの力で対応するため、近隣商業施設等との連携によるイベント「久屋ぐるっとアート」をH30年度以降継続実施。毎年約25の参加団体と多くの参加者が得られ、地域の賑わいづくりに貢献した。単なる公立の文化施設から共にまちづくりや活性化を考えていく地域の劇場として、参加団体からもその役割を期待され、劇場に対する見方の変化を感じている。特にコロナ禍においては、十分な対策を講じ事業実施することで、イベント等を躊躇していた各団体の背中を押し、地域活性化活動への参画再開を促すとともに、参加者からも、閉じこもりがちであった中、外出する良いきっかけとなった等の前向きな反応が得られた。R2年度からはリニューアルオープンしたHisaya-odori Park(久屋大通公園)も参加団体に加わり、共に当地域の活性化に寄与した。
- ・当地域の特性としては、ものづくりがさかんで労働人口は多いが芸術を楽しむ風土が未だ十分には醸成されていない状況がある。劇場がこれに対応する取組みとして、例えば会社帰りの来場しやすい時間帯に安価なチケット価格(500円のTHEオルガンNIGHT、1,000円のオルガン・アワー)で気軽に芸術を楽しむ機会を提供し、ワークライフバランスの推進に資することができた。
- ・コロナ禍の自主事業実施に関しては、対策を十分行なった上で極力実施する、中止とする場合も配信や代替事業の実施、出演者・スタッフ等へのキャンセル料の支払い等を検討するという方針をとり、舞台芸術に係る地域経済を活性化させると共に、アーティストや舞台芸術関係者の支援に努めた。また、圏域の拠点劇場としてコロナ禍における地域の文化芸術の振興を推進するため、採択を受けている本プロジェクトと一部連携させて、文化庁アートキャラバン事業を受託し(JAPAN LIVE YELL project@AICHI)事業を行なった。

(2) 有効性（平成30年～令和3年度 4か年分）

自己評価					
目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。					
プロジェクトに対するアウトカム及びそれを測る目標・指標として掲げた内容と、実績データは下表のとおり。					
	H29 年度	H30 年度	H31・R1 年度	R2 年度	R3 年度
アウトカム① 「創造する劇場」として内外に認知度向上					
目標 プロデュース作品制作と県内外での上演					
愛知県芸術劇場外で上演される当劇場プロデュース作品公演数（指標 4 公演）	8	28	7	12	9
アウトカム② 多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供し「劇場のある生活」を提案					
目標 芸術文化鑑賞者の増加、多種多様なイベントに対応できるサービス環境の向上					
大ホール公演入場者率（ダンス・オペラ）（指標 70%）	65.2	改修中	64.2	84.5	59.0
年3回以上来場者率（指標 30%）	29.7	35.6	27.8	52.2	52.0
利用者満足度調査平均点（指標 3.7 点（4 点満点））	3.66	3.59	3.74	3.83	3.82
アウトカム③ 一生に一度は劇場に足を運ぶ機会を提供					
目標 「劇場と子ども7万人プロジェクト」の実施、若者の来館者の増加					
劇場と子ども7万人プロジェクト参加者数（指標 7 万人）	2,278	2,193	4,051	4,415	10,838
U-25 来場者率（指標 30%）	23.5	22.1	34.1	13.4	30.9
アウトカム④ 芸術文化を生業にできる人材と環境づくり、劇場運営の専門性の向上、圏域全体の文化力の向上					
目標 アトマジックに係る研修の開催、劇場職員の運営対応力向上のための研修の開催、市町村劇場巡回公演やワークショップ等の実施					
舞台芸術人材養成ラボ参加者数（指標 ～R1 800 人、R2～ 900 人）	711	934	672	779	753
市町村との連携事業数（指標 8 事業）	8	8	7	6	5
アウトカム⑤ 地域の賑わい向上、社会参加の機会の拡充					
目標 地域と協働したパフォーミングアーツイベントの実施、ファミリー・プログラムの拡充					
栄北地区パフォーミングアーツイベント開催（指標 1 回）	0	1	1	1	1
ファミリー・プログラム開催（指標 2 期）	1	1	1	1	1
アウトカム⑥ 雇用と財源の安定化					
目標 自主財源の拡充、安定観客層の確保、職員の対応力向上					
チケット購入団体数（指標 18 団体）	7	8	17	14	12
愛知県芸術劇場メンバーズ会員数（指標 20,000 人）	6,805	8,591	11,556	12,560	16,119
外部研修受講者数（指標 ～R1 80 人、R2～ 90 人日）	52 人	35 人	128 人	173 人日	184 人日
アウトカム①					
・コロナ禍で複数のプロデュース作品が公演中止となる厳しい状況であったが、下記のとおり指標を上回ってコンスタントに上演を継続できた。					
・H30 年度 「ありか」（H28 年度初演）6 公演、「寿歌」（H29 年度初演）14 公演 他					
・R1 年度 「ありか」（H28 年度初演）フランス・パリ公演始め 5 公演、「レクチャー＆オペラ上演（奥様女中）」（H29 年度初演）2 公演					
・R2 年度 「どうする！？アンデルセンさん！」（R2 年度初演）12 公演					
・R3 年度 「小さな島とエヴァ」（H30 年度初演・R3 年度改編）4 公演 他					
→愛知県芸術劇場発の創造性の高いプロデュース作品を継続して国内外に発信することで、「創造する劇場」として認知度向上につなげることができた。					
アウトカム②					
・大ホール公演入場者率（ダンス・オペラ）については、H30 年度はホール改修中、R2・3 年度はコロナによる定員制限のある中での数値であることから単純比較が難しいが、入場率の低下は一定程度押しとどめられてい					

る。

- ・年3回以上来場者率については、コロナ禍でも積極的な事業展開を行なうことで指標を上回ってきており、リピーター率は高まっている状況である。
- ・利用者満足度調査については、直近3年間は連続して指標を上回る点数となり、**劇場のホスピタリティの充実が図られている**と言える。調査では感染症対策の設問も設けることにより、コロナ禍においても鑑賞機会の提供を継続できるようデータ収集を行なった。さらには、データ分析を専門家に依頼し、より詳しい評価を行なうこともできた。

→質の高いサービスのもと多種多様な表現に出会える場として愛知県芸術劇場のファン層を拡大させ、「劇場のある生活」の提案を、コロナ禍においても一定程度進めることができた。

アウトカム③

- ・「**劇場と子ども7万人プロジェクト**」参加者数については、当劇場主催として学校招待公演用のレパトリーの蓄積が進んだことにより、コロナの影響で0となったR2年度以外は毎年2~3作品上演するとともに、R2年度からは市町村への働きかけによって実現したパートナー宣言によって市町村が主催する事業とも連動させて達成を目指した。しかしコロナ禍において学校現場としては特に慎重に実施の可否を判断せざるを得なかったことや予算面での制約もあり、**指標を上回することは難しい状況となっている**。ただし、R3年度「小さな島とエヴァ」においては海外カンパニー来日不能を受け、**舞台美術のみ海外から運搬しオンラインで技術指示等を受けながら、日本人アーティスト版に改編製作して、コロナ禍でも子ども達の鑑賞の場を確保すべく劇場としては積極的に対応した**。その結果子ども達からは「もっと劇場に足を運んでいろんな文化に触れたい」、引率した先生からも「敷居が高いと思っていたが、身近に感じる事ができた」等の感想がある等、来場者からの評価は非常に高かった。

- ・**U25 来場者率**（未来の担い手育成に資する「ファミリー・プログラム」、「ミニセレ」シリーズ）については、R2年度は夏の「ファミリー・プログラム」公演がコロナによる事業中止のため測定できなかったことで低い数値となったが、R1・3年度は指標を上回ることができており、**若者の来館率は着実に向上している**。

→「一生に一度は劇場に足を運んでもらう」ための機会づくりについて、「劇場と子ども7万人プロジェクト」の指標達成は難しい状況となっているが、一定程度進めることができた。

アウトカム④

- ・**舞台芸術人材養成ラボ参加者数**については、H30年度に934名と指標を大きく上回る数値が実現したことから指標の上方修正を行なったものの、その後コロナの影響により参加者の来場が難しい状況となったことから**指標を下回ることとなった**。しかし、劇場職員セミナーを始めとする各種講座で**オンライン配信**（R2年度は配信を業者委託したが、R3年度は機材を整備し職員自ら配信作業を行なえるようになった）を積極的に進め、**参加者数を例年並みに維持することができた**。

- ・**市町村との連携事業数**については、JAPAN LIVE YELL project@AICHIにより新たに連携に至った事業もあったが、コロナの影響により中止が多くあったことから**指標を下回った**。

→コロナ禍において難しい部分はあったが、圏域における芸術文化関係者の水準向上を、一定程度図ることができた。

アウトカム⑤

- ・**栄北地区パフォーミングアーツイベント**については、H30年度から実施している「久屋ぐるっとアート」を毎年継続して実施することができ、**指標を達成した**。実施にあたっては、R2・3年度においてはJAPAN LIVE YELL project@AICHI 久屋プロジェクトをプログラムの一部として取り入れることで、イベントやアーティストの多彩さ、ボリューム感を出すことができた。新規で参加の意向を示している団体もあり、**今後さらに拡がりが見込める**。

- ・「**ファミリー・プログラム**」の開催については、R3年度まではこれまでどおり夏の1期開催であったが、R4年度にGW期間においても家族で楽しむことができるコンサートホールでの「オープンハウス」イベント（自由見学、ガイドツアー、ミニコンサートを実施。ミニコンサートではオルガニスト養成講座受講生が演奏）と小ホールでの関連参加型イベント（人材養成ラボの講座から生まれた企画）を実施することで、**指標を達成する見込みとなっている**。「ファミリー・プログラム」については、この4年間で新規来場者率が向上する等初めて劇場へ足を運ぶ機会づくりに資する形となっているとともに、オープンハウスについてはこれまでに実施した際も新聞・テレビ等各种メディアでも度々紹介される等注目度は高く、今後子どもも含めたさらなる来場者拡大が見込める。

→芸術文化による地域の賑わいづくりやあらゆる人が社会参加する機会づくりを、コロナ禍においても着実に進められた。

アウトカム⑥

- ・**チケット購入団体数**については、コロナ禍において企業団体への訪問が難しいこともあり、R3年度までは指標を下回る状況となっているが、R3年度から本格的に募集を開始した賛助会員制度とも合わせて粘り強く働きかけを行なう予定であり、R4年度には**指標達成を図りたい**。

- ・**愛知県芸術劇場メンバーズ会員数**については、特にR2年度のコロナ禍で増加率が低くR3年度までは指標を下

回っている状況だが一定の伸びは見られており、R4 年度においては情報提供等のサービス充実によって 2 万人の達成を目指す。

- ・外部研修受講者数については、R2 年度から指標の測定単位を人日とし、複数日に渡る研修の参加状況を適正に反映するよう改めたところ、指標を大きく上回ることができた。特にコロナ禍では対面研修に代えてオンライン研修の受講も含めた Off-JT を推進したことで、戦略的に職員の能力向上のための機会を作ることができた。
- 劇場の活動を支える職員のスキル向上については一定の成果は認められるところであるが、引き続き財源拡充の取組みに努力していく必要がある。

(3) 効率性（平成30年～令和3年度 4か年分）

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

プロジェクト採択時にたてた5年間の計画工程表に基づき、H30からR3年度まで4年間、各プロジェクト・事業に応じて、必要な人材・時間・事業費を投入して事業実施（アウトプット）した。

事業期間中、コロナの影響で事業中止・延期等があり一部計画どおりとならない部分もあったが、概ね計画どおり実行した。各プロジェクトの進捗状況は下記のとおり。

①発信力強化プロジェクト ～コロナの影響での事業中止があったものの計画を上回って達成～

- ・芸術監督の設置・プロデュース作品の製作と上演は、最も力を入れて取り組み、コロナ禍においても指標を下回ることなく実施し、特にプロデュース作品の海外公演については、計画では最終年度に達成予定であったが、これより早くR1年度に「ありか」パリ公演を実現することができた。

②鑑賞プロジェクト ～コロナの影響での事業中止を除き計画通り達成～

- ・海外招聘ダンス公演はコロナの影響で0となったR2年度以外は計画に沿って毎年コンスタントに（まだ招聘が難しかったR3年度においても各所と調整により特別許可を得ることによって）実施できた。
- ・オペラ、オルガン、「ミニセレ」シリーズといった多種多様な作品の上演はコロナ禍にあっても概ね計画どおり毎年実施できた。実施にあたっては、R2年度以外は毎年1回以上民間事業者との連携によって制作・広報面の相乗効果や経費削減を図った。

③普及教育プロジェクト ～一部項目で計画を下回ったがそれを除き達成～

- ・「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、当劇場主催公演をコロナの影響で0となったR2年度以外は毎年2～3作品上演するとともに、R2年度からは市町村とのパートナー宣言によって、達成を目指しているが、コロナの影響もあり、現時点で計画に掲げたR4年度までの「1年間で7万人」実現は難しい状況である。ただし、コロナの収束状況にもよるが、市町村とのパートナー宣言の推進や学校招待公演のプログラムを拡充すること等により、参加者の増加に努める。
- ・「ファミリー・プログラム」はR3年度まではコロナ禍においても毎年、夏の1期開催を継続してきたが、R4年度からはGW時期を加えた2期開催（夏・冬から季節は変更）となり、計画どおり実現する。
- ・対象別の普及教育プログラムについては、①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者等劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向を対象とし、オンライン開催によって全国から参加を得る等プログラムを一層充実させ、計画通り毎年継続実施できた。

④連携・交流プロジェクト ～コロナの影響での事業中止を除き計画通り達成～

- ・県内市町村巡回公演はコロナの影響で中止となったR3年度以外、計画に沿って毎年継続実施できた。とりわけ、コロナ禍前のR1年度の「L00」では当劇場含め9館23公演を実現した。
- ・舞台芸術人材養成ラボも、コロナ禍にあってはリアル・オンラインを併用する形で、計画に沿って毎年各種プログラムを継続実施した。

⑤社会課題対応プロジェクト ～コロナ禍でも計画を上回って達成～

- ・地域との連携イベントとしては、「久屋ぐるっとアート」を計画どおり毎年継続実施した。
- ・行政・関係団体との連携としては、行政・NPO等への積極的な働き掛けを進め、R2年度から予定していた多文化共生・福祉関係との事業連携が計画より早くH30年度から毎年継続実施できた。

⑥「雇用と財源」安定化プロジェクト ～計画通り達成見込～

- ・人材関係では、県派遣職員のプロパー化は計画どおり順次進むとともに、外部研修、プロデューサーらが国内外の公演・見本市等を視察する企画調査（コロナ禍では海外視察は実施できず）、AAPPAC（アジア太平洋舞台芸術文化施設協会）等の国際会議参加（コロナ禍ではオンラインで出席）はコロナの影響を除けば計画どおり実施できた。
- ・財源関係では、劇場メンバーズ会員はコロナ禍で事業中止が最も多かったR2年度は伸びが鈍かったが、その他の期間では順調に推移しており、計画に掲げたR4年度の2万人達成を目指す。また、賛助会員制度はR3年度から本格的に募集を開始することとなり、地域の企業団体を中心に計画どおり関係性の構築が進んだ。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

事業（アウトプット）に応じて適切な収支の積算を行ない、できる限り当初計画（要望時）と決算時の間で乖離が生じないようにした。

事業費については、価格競争を重視した調達手法はもちろんのこと、他館との共同制作や民間事業者・行政機関等との連携によって、経費節減に努めながら、効率性を意識した経費執行を行なった。執行については、県に準じた競争性・公平性・透明性の高い基準かつ公益法人としての会計基準等に従って適切に行なった。

当初計画との整合に関しては、小・中規模事業では、要望時と決算時の間で20%以上の乖離を生じた事業が複数生じた（公演内容のわずかな変更や出演料の交渉、舞台スタッフの配置、広告宣伝の状況等による少額の増減であっても、事業費自体が小さいため割合として乖離が大きくなる）ものの、事業費が1千万円以上の大規模事業で乖離が20%以上生じた事業は、H30年度の2事業以外はコロナの影響によるものであった。各年度の該当事業は下記のとおり。

・H30 年度

「アーティスト人材養成事業」：ワークショップの成果としてショーイングを予定したが、実施しない形に内容を変更したため事業費減。

「久屋ぐるっとアート」：プログラムの一つであるダンス公演関連イベントの経費について、本体公演に経費の一部を組み込むことが可能となったため事業費減。

・R1 年度

「勅使川原三郎ダンス・コンサート」：コロナによる中止のため事業費減。

・R2 年度

「Two Feet」：コロナによる中止のため事業費減。

「朽ちた蔓延る」、「N 響定期公演」：コロナにより外国人アーティストが来日できなかったため事業費減。

「調べ」・「勅使川原三郎新作公演」：コロナによりスタッフ配置を最小限としたため事業費減。

「ソーシャルインクルージョンプログラム」：コロナにより海外カンパニー招聘公演からワークショップに内容を変更したため事業費減。

・R3 年度

「Two Feet」、「バットシェバ舞踊団公演」：コロナによる中止のため事業費減。

「ねー」：オーディションで決定した出演者に県外者が多く、コロナ対策もあり旅費が増加したため事業費増。

「風の又三郎」：コロナの影響もあり出演者・スタッフ数等全体の規模を縮小したため事業費減。

一方、事業収入（入場料、委託料）及び有料入場者数については、特にR1 年度末からのコロナ禍においては、定員制限（R2 年度は50%、R3 年度は一部座席で1 席空けのディスタンスシートを設けた）や県内市町村巡回公演の縮小により、目標に達しない事業も多く発生した。こうした中でも、下記の事業（一例）については、目標を上回る、あるいは定員制限内ではあるが完売することができた。

なお、コロナ禍においては多くの事業でオンライン配信等を行なうことにより、劇場に来なくても舞台芸術に触れられるような対応を行ない、収入には直接つながらないものの想定以上の参加者数を得ることもできた（例：「げきじょうたんけんツアー」、「AAF 戯曲賞受賞記念公演」、「劇場職員セミナー」についてはR2・3 年度いずれも配信を実施）。

・H30 年度

「バスティアンとバスティエンヌ」：大胆な台本構成で初心者にも鑑賞しやすい作品が話題を呼び、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

「Stars in Blue」：世界トップクラスのバレエダンサーと一流の音楽家による、コンサートホールでの「ダンス・コンサート」という独自シリーズとして当劇場委嘱振付作品も含めたプログラムは高い注目を集め、バレエ・音楽双方の多くのファンが来場し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

・R1 年度

「NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）」公演：学校への働きかけにより有料での学生団体鑑賞が実現し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

「クリスマスはオルガンだ！」：前年度非常に好評であったため1 公演追加し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

・R2 年度

「ダンス・セレクション」：コロナ禍でもチケット販売状況が好調であったため1 公演追加し、入場者数が目標を上回った。

「芸術監督就任記念シリーズ」3 公演：定員制限した範囲内ではあるが予定販売枚数完売となり、芸術監督への注目度の高さがうかがえた。

・R3 年度

「N 響定期公演」：コロナ禍でも著名な外国人指揮者・ソリストの招聘が実現したこともあり、事業収入・入場者数とも目標を上回った。コロナ禍においても地域の観客の高いニーズがうかがえた。

(4) 創造性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

H30 年度をピークとする休館を伴ったセンター改修工事(H31.4 月下旬から劇場の3ホールがフル稼働)及び R2.2 月頃から始まるコロナの影響下にあったが、当劇場の自主事業の柱である2つのフェスティバル(「ファミリー・プログラム」、「愛知芸文フェス」と「ミニセレ」)シリーズにより様々な創造性豊かな事業展開を行なった。

事業の組み立てにあたっては、芸術監督・劇場アドバイザー及び(副)館長以下*複数の専任プロデューサーが互いに議論を重ね、独創性、新規性、先導性を高めるよう努めた。

※ 初代芸術監督として、R2 年度から世界的な振付家・ダンサー・演出家の勅使川原三郎が就任し創造性を高める様々な取り組みを実施している。(同氏は「振付家、ダンサー、画家、彫刻家、デザイナーとして、動きの独自性の高さをもって新たな美学を創出した」との評価を受け、R4.7 月のベネチア・ビエンナーレダンス部門で金獅子功労賞を受賞予定。)

事業部門を統括する責任者としては、R1 年度まで丹羽康雄(前・日生劇場理事、企画制作部長)館長が、R2 年度からは浅野芳夫(R2 年度は副館長、R3 年度から館長)が務め、着実に事業計画をとりまとめ推進している。また、芸術監督制度への橋渡し及び補佐役として劇場アドバイザーを設置し、R1 年度は勅使川原現監督が、R2～3 年度は丹羽元館長が務めた。

①独創性(当劇場独自の創造力による他に類を見ない先駆的・実験的な活動)

(1) 勅使川原芸術監督と地域のダンサーが創り上げた「風の又三郎」公演(R3 年度)

勅使川原監督独自の高い芸術性と地域の文化的資源を掛け合わせた R3 年度「風の又三郎」公演は、アーティスト人材養成の一環として出演した地域ゆかりのダンサー11 名を大きく成長させるとともに、「ファミリー・プログラム」として上演したことで、大人から子どもまで観客は、なじみある物語がこれまでに美しく視覚化された舞台を、驚きをもって鑑賞した。足を踏み鳴らすアンサンブル等で見られた律動的な群舞、アーティスティック・コラボレーターの佐東利穂子による原作の朗読、緻密な照明による光と影で表現された校舎や刻々変化する時間感覚等、当劇場大ホールを存分に生かした創造がなされ、勅使川原監督の手腕がいかに発揮された優れた作品となった。

地域ゆかりのダンサーを活用し育成につなげた点でも、勅使川原監督監修の新作ダンス公演を「ファミリー・プログラム」として企画した点でも、コンテンポラリー・ダンスに力を入れてきた当劇場ならではの他に類を見ない先駆的・実験的な挑戦で独創性がある。また勅使川原は過去にも宮沢賢治の文学を舞踊化しているが、先端的な表現を残しつつも子どもを含め誰でも楽しめる作品として製作された点で、一種異彩を放つ公演となり、総合して、大きな成果となった。

(2) 「ミニセレ」シリーズを始めとした先駆的・実験的作品の上演

当劇場の先駆的・実験的な作品上演についてはセンター開館以来高い評価を得ている。ブラックボックスと呼ばれる小ホールの特徴を活かして様々な領域の同時代的な作品を上演する「ミニセレ」シリーズの一つとして再演を重ね海外発信も実現したダンスとラップによる先端的な作品「ありか」を始め、独創性の高いジャンル横断・ボーダーレスな作品上演を毎年継続実施した。

(ア) AAF 戯曲賞受賞記念公演及び受賞作家への支援継続

当劇場が主催する AAF 戯曲賞は、「上演を前提とした戯曲賞」として海外からの応募もある等、広く注目を集めており、R1 年度には応募が136 作品と過去最高を記録している。この大賞受賞作品については劇場プロデュースでの上演を実施し、H30 年度に第17 回受賞作「シティⅢ」(作:カゲヤマ気象台)、R2 年度に第18 回受賞作「朽ちた蔓延る」(作:山内晶)、R3 年度に第19 回受賞作「ねー」(作:小野晃太郎)を「ミニセレ」シリーズの中で上演し、いずれも若手作家に戯曲の上演の機会を提供するとともに、作家・演出家・俳優・スタッフ・観客にとって幅広い意味での出会いの場を提供している。また、新人発掘にとどまらず、戯曲賞受賞者のその後の活動にも注視し、好機があれば愛知での公演を製作支援する等息の長い取り組みを行なっている(第16 回受賞作家・額田大志率いる「ヌトミック」が H30・R3 年度当劇場と共催にて愛知公演実施)。

(イ) 「声明」(H30 年度)

宗教儀式というだけでなく高い音楽性を備えた「声明」の公演を、「声明の会・千年の聲」の出演により H30 年度に実施した。構成を、古典声明と新作声明(新作は、東日本大震災を契機に創られた現代声明)によるコンサートとして、宗教的要素を残しつつも、当劇場コンサートホールにあわせた照明等の荘厳な空間演出を加えてシアターピース(舞台のみならず客席内へも演奏者が移動し演技する)のように演奏する形とした。これにより、仏教音楽の域を越え、ジャンルを問わない多くの観客層の関心をひくボーダーレスな公演とすることができた。また実施にあたってはテレビ局と連携し、制作・広報面でのノウハウの共有を図った。

(ウ) 「KUMANO」(R3 年度)

オランダ在住のピアニスト・美術家・アートディレクターの向井山朋子による、映像インスタレーション

と音楽の新作コラボレーション作品「KUMANO」を R3 年度にアーティスト自身の財団他との共同製作により上演した。本作品は、向井山氏の故郷・和歌山県熊野を題材に自身で撮影した映像やプライベートの写真、熊野を題材にした曼荼羅等を、スクリーン、半透明の布やピアノそのものに投影する等、極私的な視点で表現され、微細にわたって高い質の音・照明・映像による新しい形の舞台となり、「ミニセレ」らしい作品創造ができた。

(3) プロデュース作品の製作・上演

ジャンルを問わず数多くの独創的なプロデュース作品を、地域の特性を踏まえ、また地元出身アーティストを起用して製作し、他劇場を含めて上演を行なった。

(ア) 「Stars in Blue」(H30 年度)

H30 年度に、元パリ・オペラ座エトワールで当時ウィーン国立バレエ団芸術監督であったマニユエル・ルグリと愛知県安城市出身のピアニスト・田村響他との共演による「Stars in Blue」を、ダンス・音楽双方のファンを取り込みながらコンサートホールの新しい使い方を提案する「ダンス・コンサート」シリーズとしてプロデュース上演した。バレエ教室の大変多い当地域であるが当劇場以外では公演数が少なく、「ダンス公演なら愛知県芸術劇場」とのニーズが極めて高い中、当劇場委嘱振付作品も上演するなど、当劇場にしかできない芸術性の高い作品上演が行なえた。また本作品は、当劇場の他に国内3館での巡回公演（テレビ局が公演を買い取る官民協力もあり）を行ない、愛知県芸術劇場のプレゼンスを高めることができた。

(イ) オペラ「バ스티アンとバスティエヌ」(H30 年度)

H30 年度に、幅広い演目の鑑賞機会の提供とオペラの普及という観点を踏まえ、事業予算・チケット単価ともに高額となる大規模公演ではなく、小ホールという劇場空間を活かした、演劇的な独自構成のオペラ「バスティアンとバスティエヌ」をプロデュース上演した。オペラ界に国際的なアーティストを輩出している当地域には彼らを応援したいという気風があり、出演者を始めオーケストラ、スタッフにも地元の優れた人材（角田鋼亮（指揮）、伊藤晴（ソプラノ）、柴田紗貴子（ソプラノ）、愛知室内オーケストラ他）を起用することで、愛知において、オペラファンのみならず幅広い年齢層の初心者も楽しめる良質な作品創造が行なえた。なお、本作品は R4 年度に県内市町村劇場での学校招待公演（R2 年度の予定がコロナで延期）としても再演予定としており、劇場として良質な作品のレパートリー化を図ることもできた。

(4) オルガン（年間通じた公演、専属のオルガニスト、オルガニスト養成講座）

大規模改修におけるオーバーホールを経た日本最大級のオルガンを活用した各種事業を実施した。コンサートとしては、H29 年度までは年1～2回であったものを H30 年度からは年4回、さらに地域のニーズを踏まえ R3 年度からは年5回、対象者や目的を変え、子ども、初心者からリピーターまであらゆる方にオルガンの魅力を堪能していただけるよう実施した。実施にあたっては、専属のオルガニスト・都築由理江が演奏や企画・運営に加えオルガンのメンテナンス等全方向から当劇場のオルガンに関するサポートを行なう体制をとった。

また当オルガニストは、オルガニスト養成講座の講師も担っているが、この講座は H30 年度から開始し R2 年度までは夏の短期コースのみであったものを、受講者からの高い要望に応じて R3 年度からは通年での受講を可能とし、またその成果を披露する試演会も実施する等、一層の充実を図っている。受講者アンケートからも講座に対する高い満足度が確認でき、ホールのオルガンを活用し未来への種まきを行なうことができた。

②新規性（新たな局面を切り開く先駆的な活動）

(1) 海外アーティストによる先駆的なダンス作品の上演

当劇場の柱である大規模な海外招聘ダンス公演として、国内の他劇場等と連携しながら公演を実施した。いずれも、現代のダンスシーンをリードする気鋭のダンサー達による先駆的な取り組みであり、鑑賞者からは高い評価を得た。

(ア) イスラエル・ガルバン「黄金時代」(H30 年度)、「春の祭典」(R3 年度)

イスラエル・ガルバンは、フラメンコ界では以前から大変有名なダンサーであったが、日本のコンテンポラリー・ダンス界における実質的なデビューは高い評価を得たあいちトリエンナーレ 2016（当劇場の複数プロデューサーが舞台公演の企画・制作に携わった）であり、以降、当劇場では H30 年度に代表作のひとつ「黄金時代」を、R3 年度に当時の最新作「春の祭典」を上演した。H30 年度は彩の国さいたま芸術劇場と共同招聘、また大ホール改修工事中のため会場を名古屋市芸術創造センター（連携協定を締結する名古屋市文化振興事業団が管轄）として共催し、また地域イベント「久屋ぐるっとアート」とも連携し屋外でフラメンコを踊るイベントを開催するなど、先駆的な表現に広く触れてもらうための取り組みも行なった。R3 年度は Dance Base Yokohama との共同招聘、「ダンス・コンサート」シリーズとして実施したものであるが、コロナ禍の渡航制限で当初予定した海外のピアニストの来日が不能となりピアニスト・音楽構成ともに変更となった。ガルバンらの来日手続きについても難航したが、粘り強く準備・調整を行ない奇跡的に公演が実現、大きな話題となった。結果的に、若手の日本人ピアニストとベテランの海外ダンサーが協働する稀有な機会となった。

(イ) NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）公演（R1 年度）

世界で高い人気を誇る、現代作品をレパートリーとするダンスカンパニー、NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）の 13 年ぶりの日本公演が、R1 年度に NDT 横浜実行委員会との共同招聘により、オランダ王国大

使館の協力も得て実現した。同カンパニーは当劇場ダンス公演のアンケートにおいても最も支持の多いシリーズの高い公演である中、プログラムはこの日本公演独自のものを依頼、バラエティに富んだ4つの作品が上演され、ダンスの多様な面を見せることができた。また、本公演は学校団体鑑賞が実現し、生徒たちが世界トップレベルの先駆的な表現に触れる貴重な機会となり、普及教育にも資することができた。

(ウ) **国際共同製作プロジェクト「ON VIEW」(H30～R3 年度)**

ダンスと観客の関係性の境界を映像を通して探求するダンス・プロジェクト「ON VIEW」は、映像作家・振付家のスー・ヒーリー（オーストラリア）が、香港・日本・オーストラリアのダンサー（東海圏唯一のコンテンポラリーダンスに特化したプラットフォーム「ダンスハウス黄金 4422」（名古屋市）の浅井信好氏を含む）、スタッフと協働のもと H25 年にスタートし、当劇場は H30 年度から参加。H30 年度は名古屋芸術大学メディア学科とも連携し名古屋市内各所での撮影を実施、R1 年度にはプロジェクトの集大成として、城崎国際アートセンターでの製作を経て横浜・赤レンガ倉庫にて世界初演を行なった後、R2. 2 月に当劇場で上演された。また公演と合わせて、映像インスタレーション展示をアトスペース（催事室）において実施し、複合施設にふさわしい、まさにジャンルを横断した先駆的な取り組みとなった。なお、本作品は R2 年度以降、香港・オーストラリアでの公演も予定されたがコロナ禍により断念、しかし実施予定であった劇場等主体でオンラインを含む多様な形で作品が発表された。数々の賞を獲得し（直近では、第 23 回香港ダンスアワードで 6 つの賞を獲得）、ダンスの最先端の表現技法を追求したとして大きな注目を集めた本プロジェクトに、当劇場が共同製作館として携われたことは、大きな成果となった。

(2) **芸術文化の力を活用して社会の新たな局面を切り開く取り組み**

当劇場では、普及啓発事業として①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者等劇場に来づらい人、⑤在住外国人の 5 方向を対象とした体系的な取り組みを継続して行なってきた。この中で特に、新たな芸術文化の活用方法として社会課題の解決に取り組んだプログラムの例は下記のとおりである。

(ア) **子育て支援の取り組み**

乳幼児のいる家庭は社会的に孤立しやすく芸術文化に触れる機会が減ってしまうことが多い中、当劇場では、小さな子どもも保護者も楽しめるプログラムを用意した。例として、ダンスカンパニー「プロジェクト大山」によるワークショップ「赤ちゃんとも踊ろう」は、毎年「ファミリー・プログラム」として実施するとともに、多文化共生プログラムとも連携させ、外国人親子向けのイベントでも恒例のプログラムとなった（コロナ禍においてはオンラインで開催）。親子が気軽に芸術文化に触れられるようプログラムを工夫するとともに、社会参加する機会を作ることができた。

(イ) **障がいのある人や劇場に来づらい人に向けた取り組み**

当劇場では、地域の障がい者団体（名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋難聴者・中途失聴者支援協会、名古屋ライトハウス等）と連携し、自主事業公演において様々な鑑賞サポートを実施してきた。具体的には、聴覚障がい者向け対応としてヒアリンググループの設置（H30 年度「黄金時代」他）、字幕（R3 年度「ねー」他）、手話通訳（R1 年度「L00」他）、音声読み上げチラシ（R3 年度「アラジン」他）、視覚障がい者向け対応として点字プログラム（R2 年度「THE オルガン NIGHT」他）、開演前説明会（R1 年度「オルガンスペシャルコンサート」他）、触れる舞台美術模型（H30 年度「寿歌」）等を実施。また、職員向けに視覚障がい者対応研修も定期的に実施することで対応力向上を図った。

加えて、アートによるソーシャルインクルージョン（社会包摂）をテーマとした取り組みも R1 年度から開始し、以降 NP0 等と連携して継続実施。R1 年度はイギリスの劇団オイリー・カートを招聘し、ワークショップ、シンポジウムを行ない、続く R2 年度にはアートとコミュニケーションに関してさまざまな視点から考えるワークショップを、R3 年度は専門家・アーティストをゲストに迎えてさらに考えを深化させるオンラインゼミを通年で行なった。このように連続した展開の中で、教育・福祉の現場において芸術文化を用いて課題を解決することについて考える場を提供できた。

(ウ) **外国人住民に向けた取り組み**

外国人住民の多い愛知県において当劇場では、自主事業公演へのアクセシビリティ向上のため、多言語チラシの作成（英語、ポルトガル語、やさしい日本語）や、YouTube での配信動画に英語の翻訳字幕を付ける対応等を実施した。

加えて、H30 年度からは行政の多文化共生部門や NP0 とも連携した外国人住民向けのダンスワークショップや、共生をテーマにした演劇ワークショップを継続実施。芸術文化を用いることで、言語や文化の違い等を超えた交流・共感そして相互理解につながられた。

③先導性（我が国の芸術水準向上の直接的な牽引力となる活動）

(1) **芸術監督就任を契機に愛知からトップレベルの芸術文化を発信（R2 年度～）**

R2 年度から初代芸術監督に就任した勅使川原監督は、初年度に芸術監督就任記念シリーズの 3 公演を小ホール「ミニセレ」シリーズとして行なった。R2. 7 月の「白痴」はドストエフスキーの同名小説から着想を得たダンス作品で、H28 年に発表し国内外で上演が繰り返され同氏の中でも出色の傑作と評価されており、芸術監督就任後、初めての公演として本人と議論した中で選択。図らずもコロナによる休館明け最初の自主事業公演となる等、当劇場にとって象徴的な公演となった。また公演と合わせてアトスペース（催事室）で開催した

同氏のドローイング作品展示は、複合施設を活かして勅使川原監督のダンス以外の多彩なアーティストとしての側面を見せることができた。続く12月の第2弾「調べ—笙とダンスによる」は国際的な笙奏者・宮田まゆみとのコレボレーション作品、第3弾「ペレアスとメリザンド—デュエット版—」はドビュッシーのオペラを題材とした新作公演を上演、3作品全てコロナ禍で定員制限をせざるを得なかったが完売となり高い注目を集めるとともに、それぞれ題材や趣向の異なるプログラムにより勅使川原監督の様々な表現を内外に紹介することができた。

R3年度には大ホールにおける新作公演「羅生門」を実施。本作品はハンプルク・バレエ団プリンシパルのアレクサンドル・リアブコを迎え、芥川龍之介の同名小説を題材に、音楽は「調べ」に引き続き笙奏者の宮田まゆみが参加（愛知公演は録音）した。コロナ禍での海外アーティストを招聘しての新作公演ということで、リアブコ来日後の隔離中も当劇場リハーサル室とリモートでつなぐことで稽古を重ね創作を行ない、結果として芸術監督とともに、当劇場の大ホールの空間を活かし照明や美術などが融合したスケールの大きな作品を創造できた。

このように国際的に活躍する勅使川原監督による、芸術性の高い公演を次々と上演することにより、愛知から我が国の芸術文化レベルを牽引するような活動を行なえた。

(2) 圏域の芸術水準底上げの役割を果たす先導的な取り組み

県内、そして圏域の拠点劇場として、地域の文化芸術に関わる人材や、未来を担う子ども達の育成も行なった。

(ア) 舞台芸術スタッフ人材の養成

当劇場は圏域の拠点劇場として、劇場職員、制作者・舞台技術者、地域の芸術文化コーディネーター、さらに舞台芸術事業に関わろうとする新しい人材の養成に向け、5つのプログラムにより体系的なスタッフ人材養成を行なった。特に、全国から関係者が集まり交流の場としても機能する「劇場職員セミナー」は、愛知県、名古屋市及び名古屋市文化振興事業団との共催で、外部講師を招くだけでなく劇場職員自らが各地の事例をもとに講座を行ない、共に日々の問題に悩み解決していく実践的な内容が高い評価を得ている。R2年度からはコロナ禍においてオンライン登壇・配信を行ない例年並みの参加者を得た。また、H30年度から開始した「ファシリテーター&コーディネーター養成事業」は舞台芸術とその受け手をつなぐ役割を担う人材を養成するものだが、この継続実施により受講生が主体となって、R4年度のオープンハウスの関連イベントを実施する等、成果が実を結びつつある。これらの取り組みにより、圏域全体での舞台芸術の振興につなげることができた。

(イ) 「ファミリー・プログラム」の県内巡回公演

愛知県における拠点劇場としての役割も担当劇場は、「ファミリー・プログラム」において、市町村が単独では招聘の難しい海外カンパニー作品の県内巡回公演を、名古屋市文化振興事業団と技術連携を行ないながら毎年（コロナによりR2年度は代替企画実施、R3年度は中止）実施した。一例としてR1年度の「L00」はスペインのカンパニーによるノンバーバルパフォーマンスの作品を8劇場で上演。R2年度はカンパニー来日不能を受け代替企画として、地元のアーティストやこれまでの事業で関わってきたパフォーマーと共に、当初実施予定であったアンデルセンの作品に関連した「どうする！？アンデルセンさん！」を劇場プロデュースで急遽新製作した。コロナ対策を作品に盛り込んだ内容は親子が安心して楽しめるよう工夫され、急遽ながら調整可能となった3劇場での上演が実現、コロナ禍においても県内をリードする役割を果たせた。なお、R4年度は2年延期となったノルウェーのカンパニーによる「えんどうめめとおひめさま」を県内6劇場で実施予定である。（4年間の巡回市町村：名古屋市（千種区、瑞穂区）、半田市、碧南市、豊川市、あま市、小牧市、稲沢市、知立市、幸田町）

(ウ) 市町村との連携による「劇場と子ども7万人プロジェクト」の推進

県内の小中学生1学年に相当する7万人を劇場に招待する取り組みである「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、県内市町村との連携により進めているところであり、当劇場主催としては、H30年度にSPAC（静岡県舞台芸術センター）との共同企画「寿歌」を実施した他、日生劇場と共催したニッセイ名作シリーズ、そして当劇場プロデュース作品等のレパートリーから招待公演を実施してきた。コロナ禍においてはプロダクション側・学校側双方の理由による公演中止が発生したが、そうした中、R3年度の「小さな島とエヴァ」（H30年度に当劇場プロデュースによりオーストラリア・タスマニアの作品を日本語版としてリクリエーションした公演）を、コロナにより来日不能となったカンパニーに代わり、全て日本人アーティストに変更し舞台美術のみ海外から運搬して日本人版として公演を実現させた。オンラインを通してカンパニースタッフから指示を受けて稽古を実施する過程では困難もあったが、無事に学校招待公演を行なうとともに、国内製作による同作品の今後の上演の可能性についても見いだせた。また、この公演は山間地域や離島、支援学級や軽度の障害のある子ども達も鑑賞し、コロナ禍においても地域の未来を担う子ども達に貴重な鑑賞体験の場を提供することができた。（4年間の連携公演実施市町村：知立市、小牧市、半田市、西尾市、設楽町・東栄町・豊根村、新城市（中止））

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

当財団はR1～5年度までの5年間、愛知県から指定管理者として二度目の任意指定をされているが、これは当劇場が今まで実施してきた自主事業の成果について県が高く評価した結果であると考えている。加えて、以下の3つの視点からの評価も得ていることから、今後とも、劇場に対する評価の向上が期待できる。

①劇場運営に対する評価

当劇場は、多面舞台を有し大規模なオペラやバレエを上演できる圏域最大の大ホール、日本最大級のパイプオルガンを有したクラシック音楽に最適なコンサートホール、実験的公演が実施できる劇場として設計されジャンルにとらわれず自由で創造的な表現が可能な小ホールの3つのホールを有し、オーケストラや実演家団体、地域のバレエ団、マスコミ事業部等の利用も盛況で、利用率はコロナ以前には80%超の水準を保持していた。利用者からはソフト面を含め丁寧にニーズを聞き取る劇場運営に対する高い評価を得ており、特に大規模改修工事により施設・設備に対する満足度が向上（評価点：改修工事前（H28）3.52→改修工事後（R1）3.70（4点満点））、また、コロナ禍においては、その予防策についても当地域の指標（判断基準）となる等高く評価された。（評価点（R2）4.87（6点満点））

②自主事業に対する評価

当劇場の自主事業に対する評価の向上が確認できる具体的な事象の一例は、下記のとおりである。

<観客の反応>

観客アンケートにおける満足度は96.6%（4年間平均）と高い水準を維持し、またアンケート及びSNSからは下記のような感想が確認された。

- ・「ありか」（H30年度 Twitter投稿より）
2年前に同じ会場で観た時の新鮮さとは又別な身体、言葉、声、サウンドそして照明が絡み合うパワーを感じた。6/26～29は愛知県内の小中学生がこの公演に招待されるとのこと。素敵な企画だ。
- ・オペラ「バステアンとバステエヌ」（H30年度 アンケートより）
大スクリーンの字幕とその内容が素晴らしく解りやすかったです。オケや指揮も取り込んだ演出の妙も楽しめました。予想外の前芝居から終わりまで、ユーモアあふれる舞台で良かったです。
- ・「オルガン・レクチャーコンサート」（R1年度 アンケートより）
解説のお話がとてもおもしろくて、曲を聴くのが楽しみになり、安心して聞けました。オルガンもすばらしいけど話術もすばらしい。また来たいです。
- ・「NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）」公演（R1年度 Twitter投稿より）
ネザーランド・ダンス・シアター圧巻！4作とも数年に一度出るかどうかという傑作。本当に今回の招聘ありがたや。客席ロビーの熱気の凄さは20年位思い巡らしても比較になる公演が思いつかない。
- ・芸術監督記念シリーズ「白痴」（R2年度 アンケートより）
一切言葉のない時間のなかで、演者と照明と音楽と衣装が、雄弁に物語を紡いでいて、芸術の凄みを感じました。
- ・「N響定期公演」（R2年度 アンケートより）
もう演奏は最高だった！待ちに待ったかいのある、素晴らしい演奏！名古屋まで来てくれてありがとう。会場はコロナ対応含めてやれることは何でもやってる！という安心感。
- ・イスラエル・ガルバン「春の祭典」（R3年度 Twitter投稿より）
このコロナ禍に来てくれた意味は大きい！日本人の若いピアニストとするなど、チャレンジが多かったと思います。素晴らしい。
- ・「風の又三郎」（R3年度 アンケートより）
素晴らしい舞台でした。美しく、静謐で、神秘的、そしてオーディションを経たダンサー達のパフォーマンス、勅使川原さんの関わる作品には魅了されます。ナレーションの声もぴったりでした。
- ・「羅生門」（R3年度 アンケートより）
一瞬たりとも止まらぬ動きが緻密な心の動きを溢れさせ、とても感動的なダンスでした。あそこまで心を表現出来る技は見事です。
- ・AAF戯曲賞公演「ねー」（R3年度 アンケートより）
作品を通じて、この世の中に対するメッセージと 생각이、とても強く伝わってきました。この作品の内容が現実の世の中と地続きになっていることに、役者の方々は誠実に向き合い、丁寧に地道に積み重ねられたのだらうと思います。

<専門情報雑誌やWebメディアでの論評等>

- ・音楽専門誌「音楽の友」2019年1月及び2月号にて、H30年度のオペラ「バステアンとバステエヌ」について「創意あふれた良質な舞台」、「コンパクトな空間で新たなオペラの可能性を感じさせた」と評された。
- ・早稲田大学演劇博物館の企画展「コドモノミライー現代演劇とこどもたち」（R1.11.2-12.25）及び当該図録にて、「こどもの中の多様性」の作品例として、H30年度「小さな島とエヴァ」が紹介された。

- ・ダンス専門誌「ダンスマガジン」2019～2022 各年 2 月号における前年の「ベストステージ&ピープル」特集にて、専門家によって当劇場関係内容が複数選出された。
(R1 年度 NDT 関係で 7 名が選出、R3 年度「羅生門」関係で 4 名が選出 他)
- ・国際演劇評論家協会日本センター編の演劇批評誌「シアターアーツ第 66 号 2022 春 (特集 ジェンダーと舞台芸術)」にて、「地方の戯曲賞の現状」として、「AAF 戯曲賞」の審査員が男女同数であることが紹介された。
- ・カナダのダンス情報 Web メディア「dance international」(R3.10.5) の記事にて、「愛知県芸術劇場芸術監督に就任している勅使川原氏が、『風の又三郎』での若いダンサーへの振付の仕事を経て、コロナ禍において『羅生門』を東京・愛知で上演し、成功を収めた」と紹介された。
- ・国内の Web メディアでのダンス公演レビューが複数確認された。
(演劇ジャーナリスト・伊達なつめ氏による「Stars in Blue」記事(H31.3.14「otocoto」)、音楽ジャーナリスト・池田卓夫氏による「風の又三郎」記事(R3.7.24「音楽ジャーナリスト@いけたく本舗」) 他)

＜テレビ・新聞の取材＞

- ・H30 年度コンサートホール・R1 年度大ホールのリニューアルの際に複数テレビ取材を受け、ニュース番組で放映された (H30.11.26 NHK、東海テレビ H31.4.23 テレビ愛知、メ〜テレ、R1.5.3NHK)。
- ・R1 年度・R3 年度の学校招待公演 (劇場と子ども 7 万人プロジェクト) の際テレビ取材を受け、ニュース番組で放映された (R1.6.7 NHK「レクチャー&オペラ」、R4.1.14 NHK「小さな島とエヴァ」)。
- ・地域連携イベント「久屋ぐるとアート」については、初年度である H30 年度は NHK のテレビ取材を受けニュース番組で放映された (H30.11.2)。R1 年度以降も中日新聞朝刊で取り上げられ、記事が掲載されている (R1.11.2、R3.11.4)。
- ・勅使川原芸術監督の就任発表 (H30 年度) 及び就任会見 (R1 年度) は、中日新聞朝刊始め新聞各社にて取り上げられた (H31.1.23-24、R2.1.30)。
- ・R3 年度末からのダンサー養成ワークショップ等においては勅使川原芸術監督の活動を追う取材を受けており、今後放映予定である (R4.8.7 予定 NHK「日曜美術館」)。

＜人材養成事業受講者・受賞者のその後の展開＞

- ・舞台芸術インターン受講生
インターン事業開始 (H26 年度) 以降、受講生 74 名のうち 14 名について、舞台芸術に携わる仕事 (劇場、舞台会社、劇団、フリーランス) に従事することとなったと報告を受けている (このうち、本助成採択の H30 年度以後の受講生では卒業していない学生が多いことから、34 名中 2 名に止まっている)。

- ・「風の又三郎」出演ダンサー

R3 年度出演ダンサー 11 名のうち 4 名については、「羅生門」においてもダンサーとして出演。さらに、うち 1 名 (リーダー役を担ったダンサー) について、新国立劇場オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」(勅使川原三郎演出、R4.5.19-22 予定) への出演が決定している。その他、出演後の展開として、NBA バレエ団への入団 (研究生)、地元劇団団現帝国への入団、演劇舞踊系大学合格、モザ・バレエ・スクール (ベルギー、R4.9 開校予定) 合格、コンクール受賞、舞台出演・振付等の報告を受けている。

- ・オルガニスト養成講座受講生

H30 年度から連続して受講している 1 名について、当初は小学 6 年生で漠然と習い始めたが受講過程で本格的にオルガニストを目指すようになり、現在は高校の音楽科に通い当劇場講座で月 1 回受講するとともに、別途レッスンを受けている状況である。なお、当人についてはテレビ取材・放映もされた (R3.9.21 中京テレビ)。

- ・AAF 戯曲賞受賞者

過去の大賞受賞作家について、新人作家の登竜門と言われる「岸田國士戯曲賞」受賞あるいは候補作となる作家を輩出している。(助成期間中では、AAF 戯曲賞第 15 回の松原俊太郎、第 11 回の市原佐都子がそれぞれ第 63 回 (H31)、第 64 回 (R2) 岸田賞受賞。また、第 9 回のサリ ngROCK、第 16 回の額田大志がそれぞれ第 62 回 (H30)、第 66 回 (R4) 岸田賞候補作)

＜劇場に対する各種依頼への対応＞

- ・施設の見学・運営状況の視察として、4 年間で 50 件・799 名を受け入れた。
- ・学会での現場レポート・学術調査の依頼を受け、複数の寄稿を行なった。

③劇場職員に対する評価

当劇場は、(副)館長以下、音楽・演劇・舞踊の各分野の企画制作を担う専任プロデューサー及び広報マーケティング職員を擁しており、その経験の蓄積により事業展開を行なっており、これら職員は、高い専門性を有する人材・地域に貢献する人材として、官学民各分野から研修講師や支援員・各種委員としての派遣依頼も多く (H30 年度からは名古屋芸術大学から半期の講義を受託、プロデューサーらが交替で講義を実施)、当劇場の評価の向上に寄与している。

また当劇場は、名古屋市文化振興事業団との連携協定の締結継続 (H29 年度～)、県内市町村劇場との事業連携や民間を含めた県内外の劇場との定期的な情報共有、国内の芸術文化団体役員への就任、さらにはプロデューサーらの海外調査 (海外からの招聘による見本市への参加を含む) や AAPPAC (アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟) への加盟等、国内外の関係者との積極的な連携・交流を通じ、拠点劇場としての信頼を強固なものにするとともに芸術文化水準の向上に寄与している。

(5) 持続性（平成30年～令和3年度 4か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営の面では、当財団は「愛知県芸術劇場第二期中長期計画」をR2.3月に策定し、劇場が取り組むべき事業の展開と目標を明らかにし、毎年度達成状況を評価し進行管理を行なうとともに、県関係団体の経営改善計画や指定管理者として毎年度行なっているモニタリング調査、利用者満足度調査等により、サービス向上や事業運営の改善に努めている。採択を受けている本プロジェクトは、これらの計画等とも関連付けられており、各種計画等の推進により担保されている。

また、設置者かつ最大のステークホルダーである愛知県が、「愛知県文化芸術振興条例」及び「あいち文化芸術振興計画2022」により当劇場を文化施策の重要な一翼を担っている施設と位置づけ、また当財団をR1～5年度までの5年間を期間とする指定管理者として任意指定（二度目）していることから、**県の当財団・劇場に対する評価は高く、今後の期待も大きい**と考えている。

経営戦略（財務）面では、上述のとおり、当財団はR1年度から5年間指定管理者として任意指定されていることから、**県の劇場への持続的な財政支援**が裏付けられている。また、コロナ禍において当劇場は貸館利用者に対し、感染拡大防止のために利用をキャンセルした場合の施設利用料金を全額返還するとともに、感染防止対策を講じた上でのホール利用者に対して施設利用料金を半額に減免する対応をとった（R3年度末まで）が、これも県の財政支援によるものである。

また、さらなる**安定的な財源確保**については、チケットの団体購入の促進や外部資金獲得に努めてきた。特に「賛助会員制度」については、コロナの影響で企業団体への働きかけが難しい状態が続いたため当初予定したR2年度からの募集開始はできなかったものの、R3年度からは制度を整え本格的に募集を開始し、コロナ禍でありながら14法人に賛同をいただいた。多くの法人・個人の皆様に劇場事業を支援いただけるよう、引き続き地元企業等を中心に働きかけを進めていく。

人事戦略（人材）面では、当財団の策定した「人材育成計画（H27年度策定）」に沿ってOJT・Off-JT・自己啓発支援・ジョブローテーション及びフォローアップを組み合わせる体系的に行なうことにより**職員の能力向上の取組み**を行なったところであるが、特に外部研修（Off-JT）については計画的に実施することで、より高いスキルを備えられるよう促進した。

また、専門性が求められるポジションについては県派遣職員から**プロパー職員への転換**（H30年度19名→R4年度22名）を進めており、県派遣職員の適切な配置を合わせて行なうことで、県とのつながりも維持している。さらに、人材の定着に関しては、**職員の無期転換**（H30年度以降3名実施）を行なう等、労働環境の改善につなげている。

なお、R3年度からは**組織体制を見直し**、専任の館長（プロパー職員）を配置するとともに、3部制から劇場運営部・舞台技術部・企画制作部・広報マーケティング部・総務部の5部制とするほか、より専門性を高めるべくエグゼクティブプロデューサーを設け、執行体制の強化と各職員の一層のモチベーションアップを図ることで、持続的な組織体制を整備した。

ネットワークの構築については、**県内の市町村劇場をはじめ、国内先進劇場との共同招聘・共同制作等**による事業連携を行なうとともに、国内外の劇場との定期的かつ継続的な情報共有を行なっているほか、国内の芸術文化団体の役員を務める等により積極的に取り組んできたところであるが、**各所とはコロナ禍において一層連携強化を図っている**。また、勅使川原氏芸術監督就任（R2.4）による同氏のネットワークも活かした国内外のアーティストとの連携や、ダンス環境の整備と人材育成のため設立されたDance Base Yokohamaとの連携協定締結（R3.1）により、当劇場のさらなるプレゼンス向上を図った。

以上のように各視点から組織活動の強化・発展に努めているが、事業実施にあたっては、下記会議等によって**PDCAサイクル**を回している。

P＝企画会議（隔週実施。プロデューサーらによる企画の提案・検討及び決定の場。）

D＝公演等の事業実施（実施にあたっては、制作連絡会議（毎週実施）にて関係者が密に情報共有し、実施にあたって必要な調整を行なう。また統一フォーマットで公演概要資料をまとめ、当日運営にあたり漏れ落ちのないよう留意する。）

C＝評価会（観客アンケート、出演者・スタッフの声、入場者数、予算・決算、広報結果等の実施結果を統一フォーマットの評価シートにまとめ、担当から役員まで関係者全員が一堂に会し定量的・定性的な評価とともに課題についてディスカッションすることで、次回への改善を行なう場。）

A＝企画等の見直し（評価会で議論された課題を踏まえて、次回企画会議に諮る。）

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

上述した「愛知県文化芸術振興条例」において、当劇場の活用による新たな文化芸術の創造と国内外へ発信の他、文化芸術の担い手の育成、県民の鑑賞機会の充実及び高齢者、障害者の文化芸術活動の充実等が謳われている。当財団は、これまでの助成事業の実施を通じて、これらの施策に寄与する専門知識、経験、ネットワーク等を培ってきたが、このことを積極的にアピールすることで、引き続き指定管理者として、安定した運営・財務基盤のもとでの事業継続を行なっていきたい。

また、「(2) 有効性」で示したとおり、当初計画において掲げた目標とその指標については、現状一部未達のものがあるものの、目標に沿った取組みを継続的に続けていることで一定程度の成果を収めているものと認識している。未達となった理由は、コロナの影響によるところが大きいものと考えているが、その影響からの回復が徐々に見られることから、今後も粘り強く取組みを進め、さらなるアウトカムの発現に努める。

当財団・劇場は、上述のとおり、安定した運営・財務状況、専門性の高い人材の育成・確保、国内外の劇場との広範なネットワークの構築を維持・強化してきたが、今後も、愛知県を始め官民からの支援を受けながら事業を計画的に実行しつつ、定期的にその結果を検証し、不断の見直しを行なう（PDCA サイクル）ことで、事業実施に伴うアウトカムの発現・定着が期待できる組織運営を目指していく。